

令和7年度  
病院における医薬品安全性情報の  
入手・伝達・活用状況等に関する調査  
(調査対象：医薬品安全管理責任者)

主な調査結果

調査概要	3
回答者、回答施設の概要	4
安全性情報の入手・伝達について	13
リスクコミュニケーションツールについて	28
PMDAからの情報提供について	54
安全性情報の活用について	59

## 【調査目的】

独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）では、安全対策の一環として、医薬品や医療機器の安全な使用を図るため、報告された副作用情報等をもとに、添付文書の「使用上の注意の改訂」等の安全対策を厚生労働省と連携して検討・決定するとともに、情報発信等の業務を実施し、全国の医療機関等との情報交換を通じて、安全対策を推進している。

本調査は、講じた安全対策措置を確実に実施し、患者のより一層の安全を図るため、医療機関における医薬品安全性情報の入手・伝達・活用状況を把握し、安全性情報の活用策を検討することを目的として実施した。

## 【調査対象】

全国の病院のうち40%<sup>※1</sup>：3248施設

※1：都道府県別に病床数を考慮し、無作為抽出した。

## 【調査期間】

令和7年6月16日～令和7年7月28日

## 【調査方法】

調査対象施設の医薬品安全管理責任者宛てに調査票を郵送し、医薬品安全管理責任者に回答を依頼した。回答者による自記式アンケート調査とし、回答方法はインターネット上のウェブ調査票での回答を原則としたが、紙面調査票の返送での回答も選択できるようにした。

## 【回収状況】

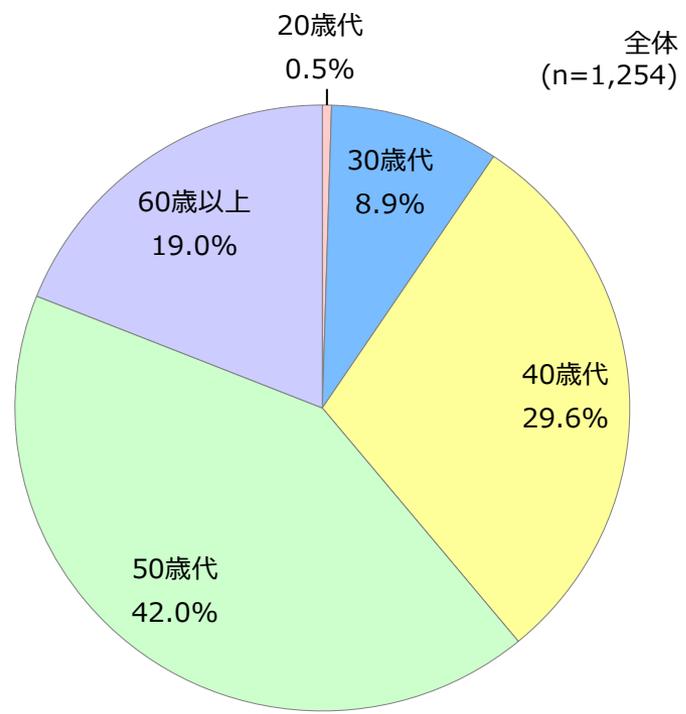
発送数：3248施設

有効回答数<sup>※2</sup>（有効回答率<sup>※3</sup>）：1257施設（38.7%）

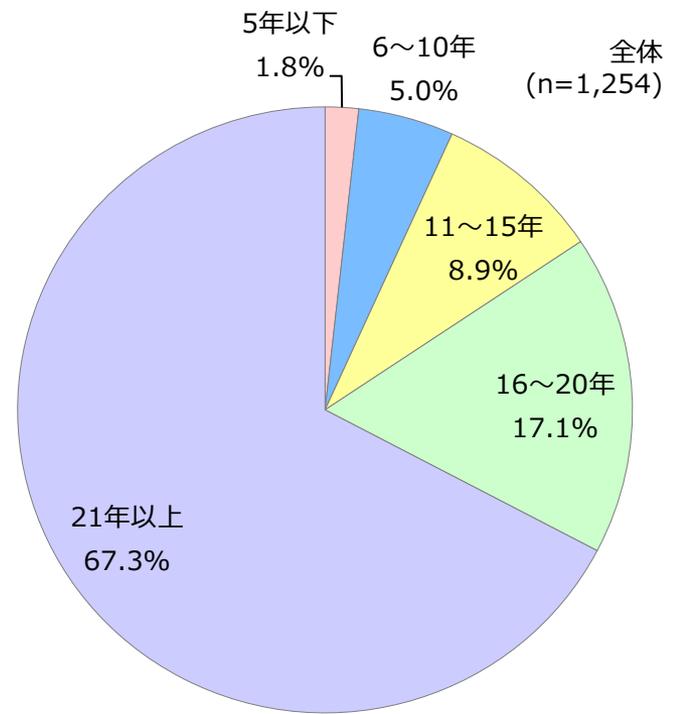
※2：令和7年7月30日を期日として回収されたウェブ調査票、令和7年8月8日を期日として回収された紙面調査票をもとに集計した。

※3：有効回答率は、「発送数」に占める「有効回答数」の割合を示している。

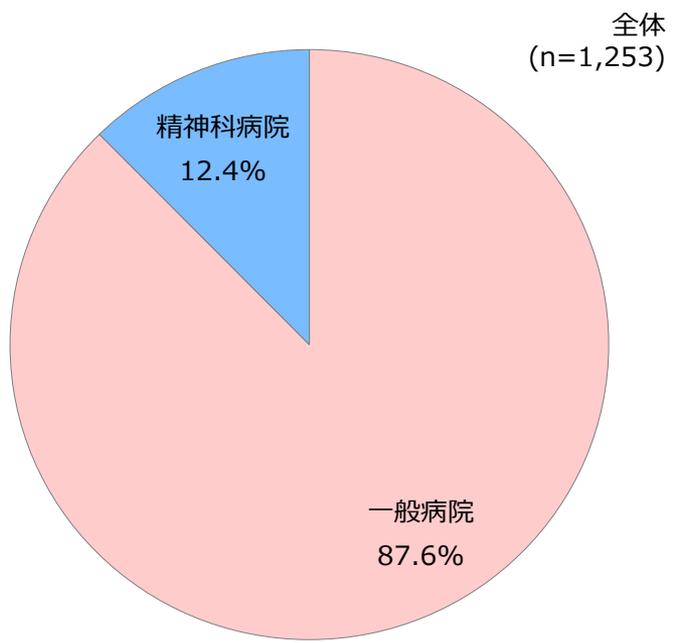
## 【年齢】



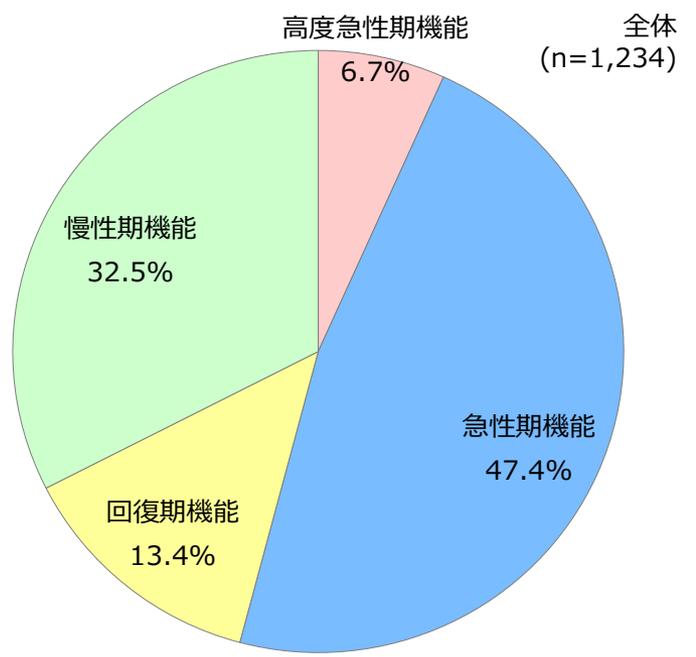
## 【臨床経験年数】



## 【病院種別】

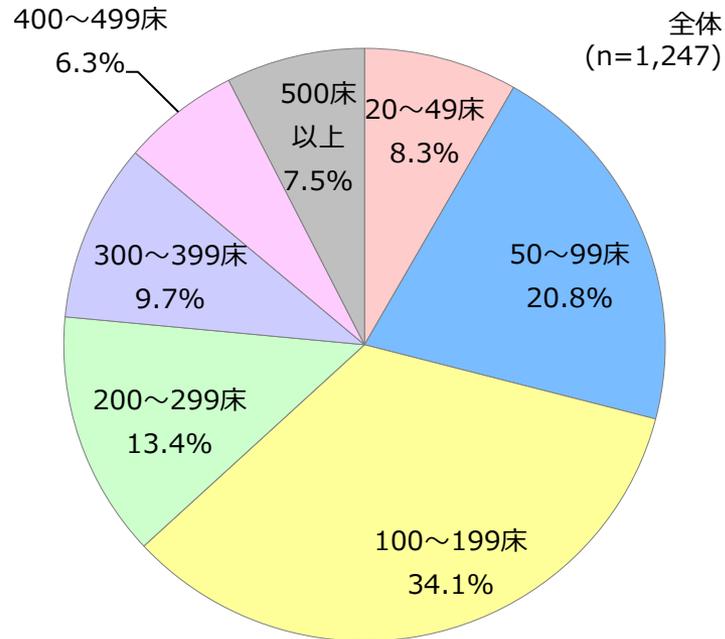


## 【病床機能】

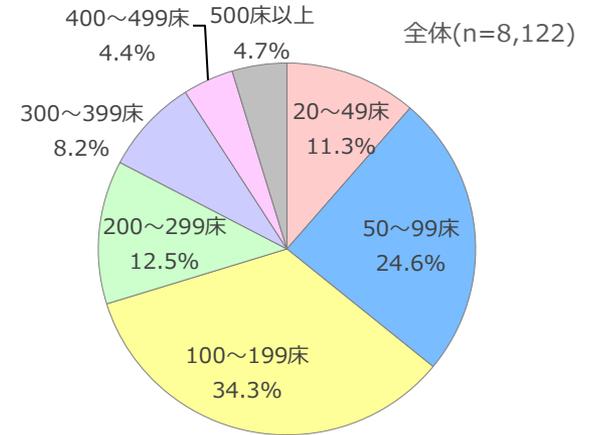


# 回答施設の概要②

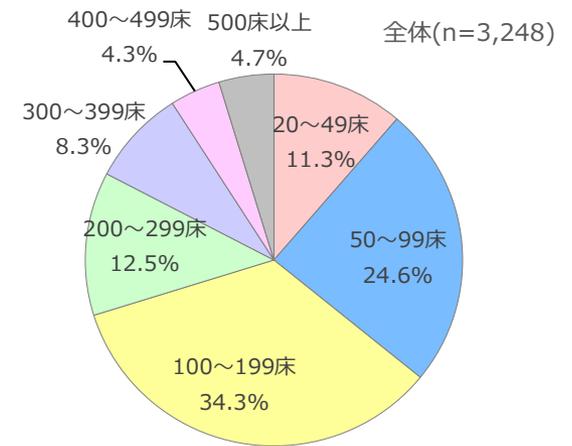
## 【病床数】



## 《全国の施設※》



## 《調査票発送先の施設》



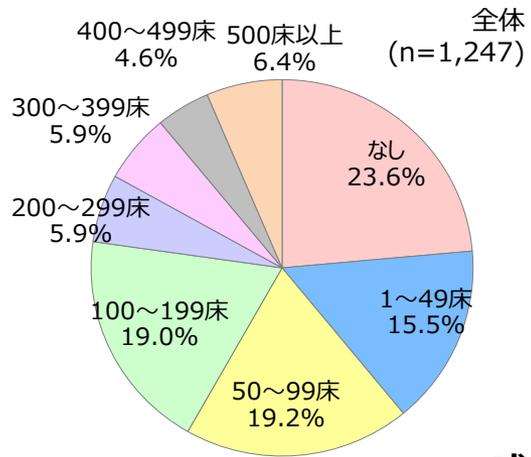
※e-Stat 医療施設調査 / 令和5年医療施設（静態・動態）調査 都道府県編

[https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&cycle=7&toukei=00450021&tstat=000001030908&tclass1=000001222880&tclass2=000001222882&tclass3val=0&stat\\_infid=000040222779](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&layout=datalist&cycle=7&toukei=00450021&tstat=000001030908&tclass1=000001222880&tclass2=000001222882&tclass3val=0&stat_infid=000040222779)

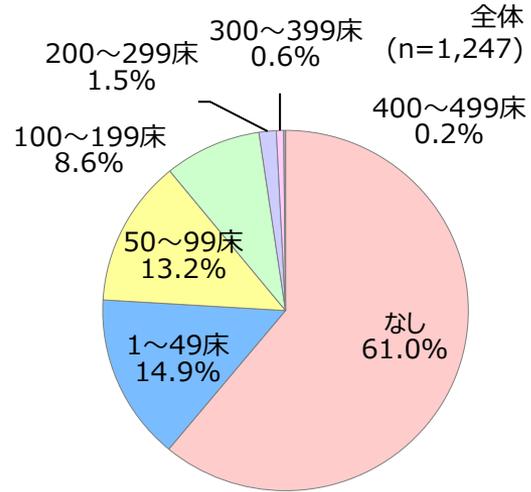
令和7年度 病院における医薬品安全性情報の入手・伝達・活用状況等に関する調査（医薬品安全管理責任者）

## 【許可病床数】

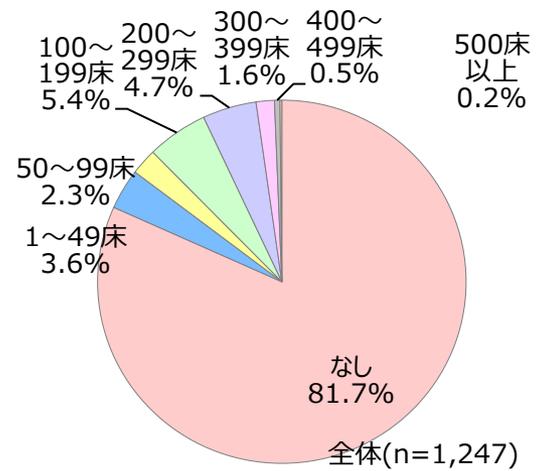
### 一般病床



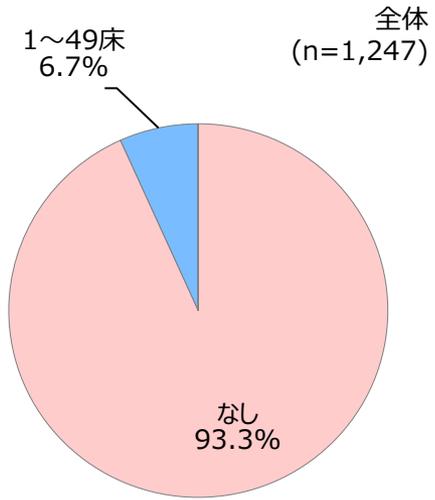
### 療養病床



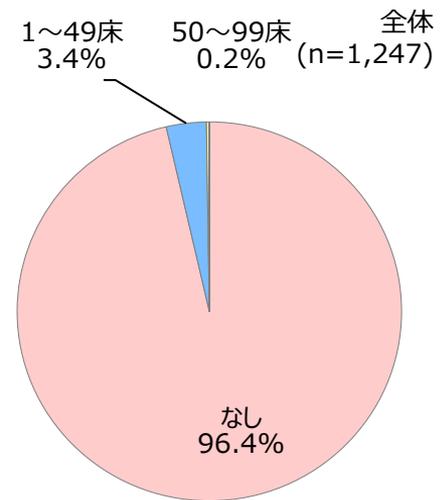
### 精神病床



### 感染病床

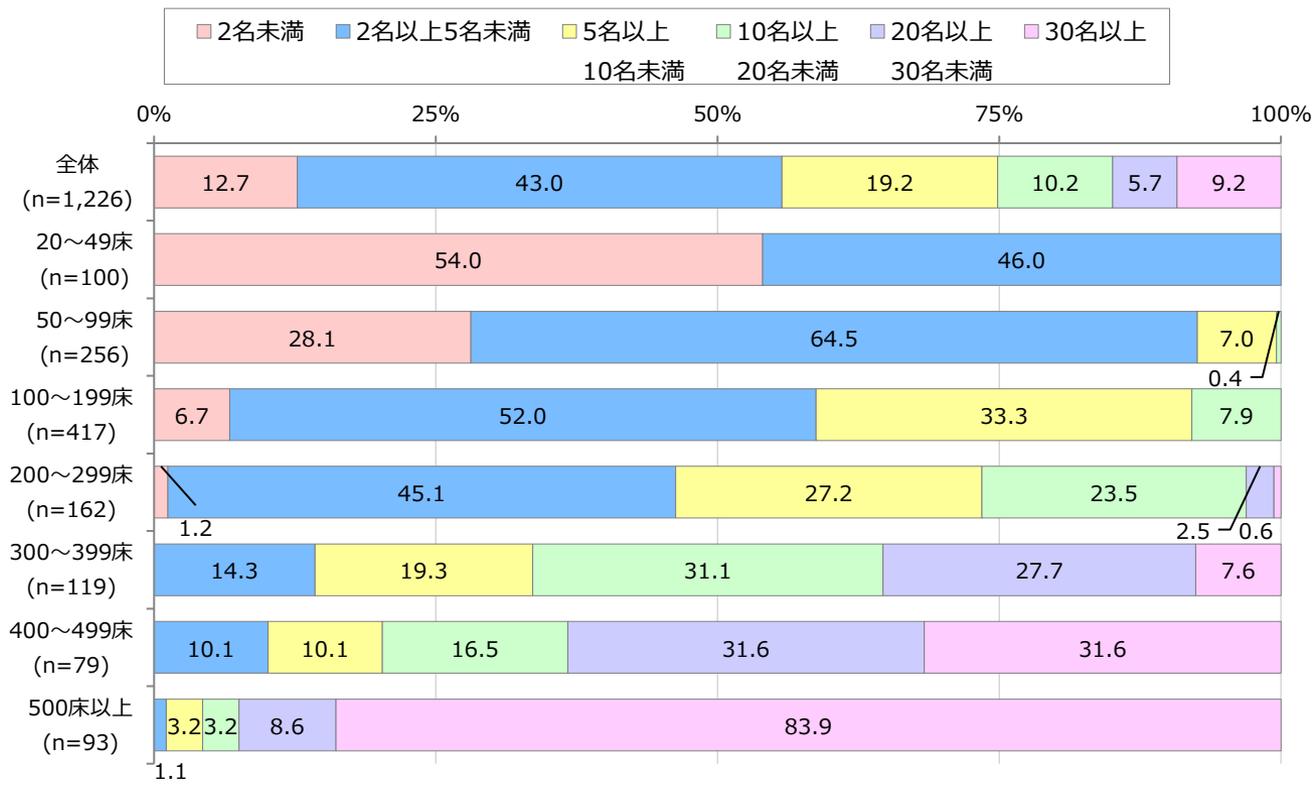


### 結核病床



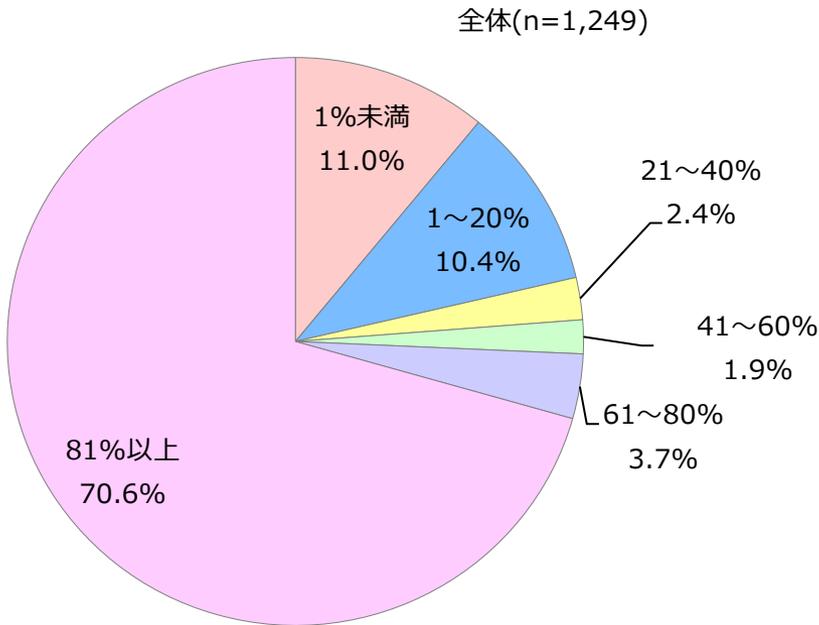
## 【薬剤師数（常勤換算数）】

《病床数別》



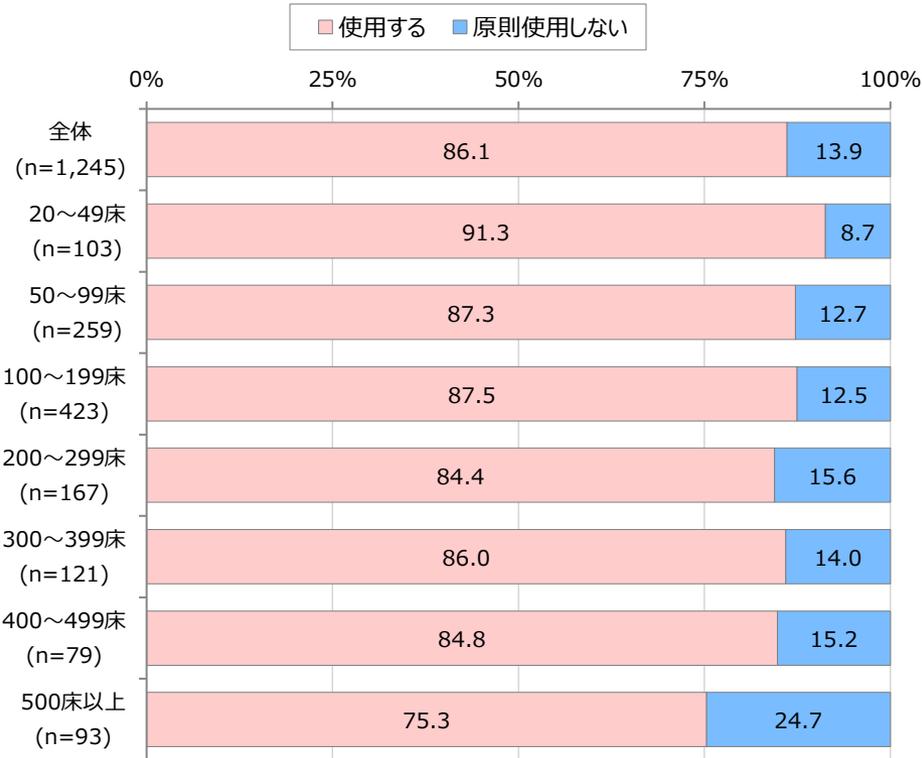
# 回答施設の概要⑤

## 【院外処方箋発行割合】

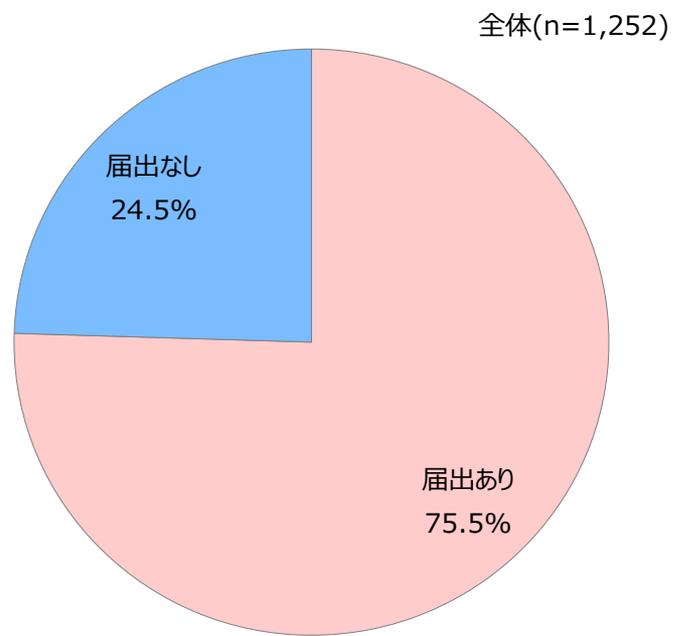


## 【持参薬の使用について】

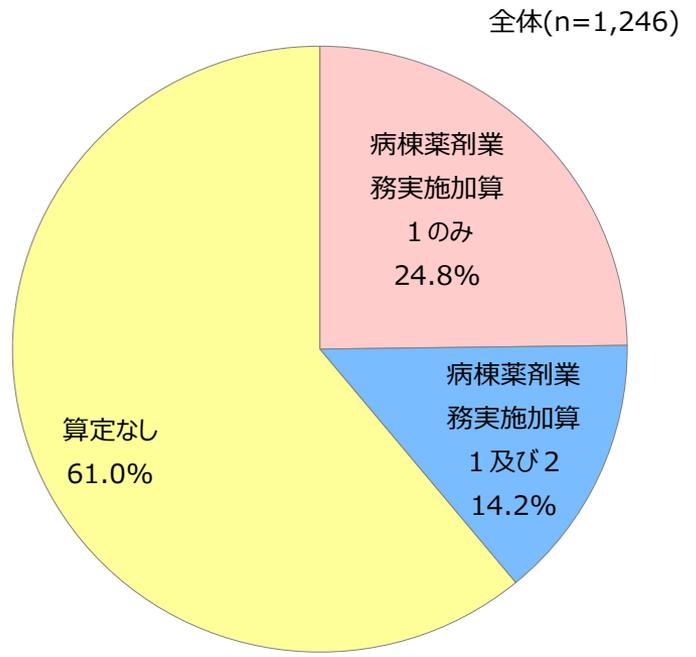
### 《病床数別》



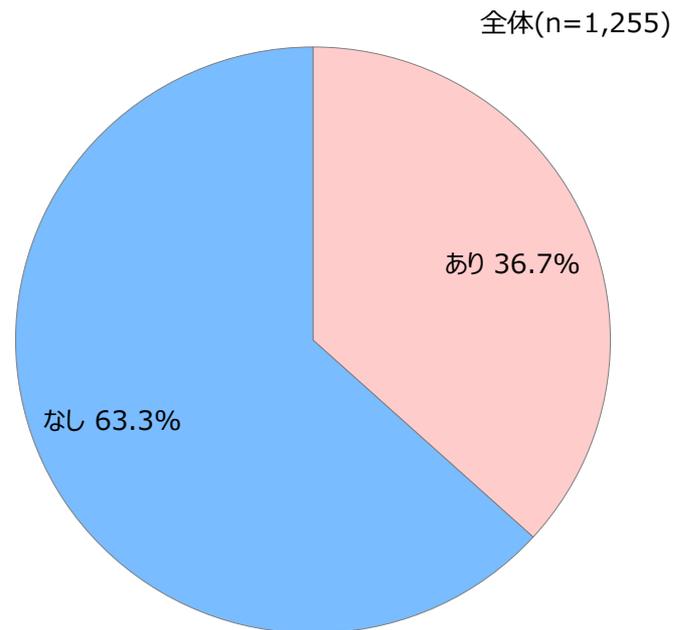
## 【薬剤管理指導料】



## 【病棟薬剤業務実施加算】



## 【薬学実務（薬学生）の受入れ状況について】



※以降、前回調査結果の記載があるデータは令和4年度時の調査結果です。  
詳しくは下記のURLからご覧ください。

PMDAホームページ 医療機関等における医薬品安全性情報の入手・伝達・活用状況に関する調査  
主な調査結果および望まれる方向 <https://www.pmda.go.jp/files/000251427.pdf>

※調査票の設問のうち、参考として収集した情報は本報告書に記載しておりません。このため、設問番号に一部欠番があります。

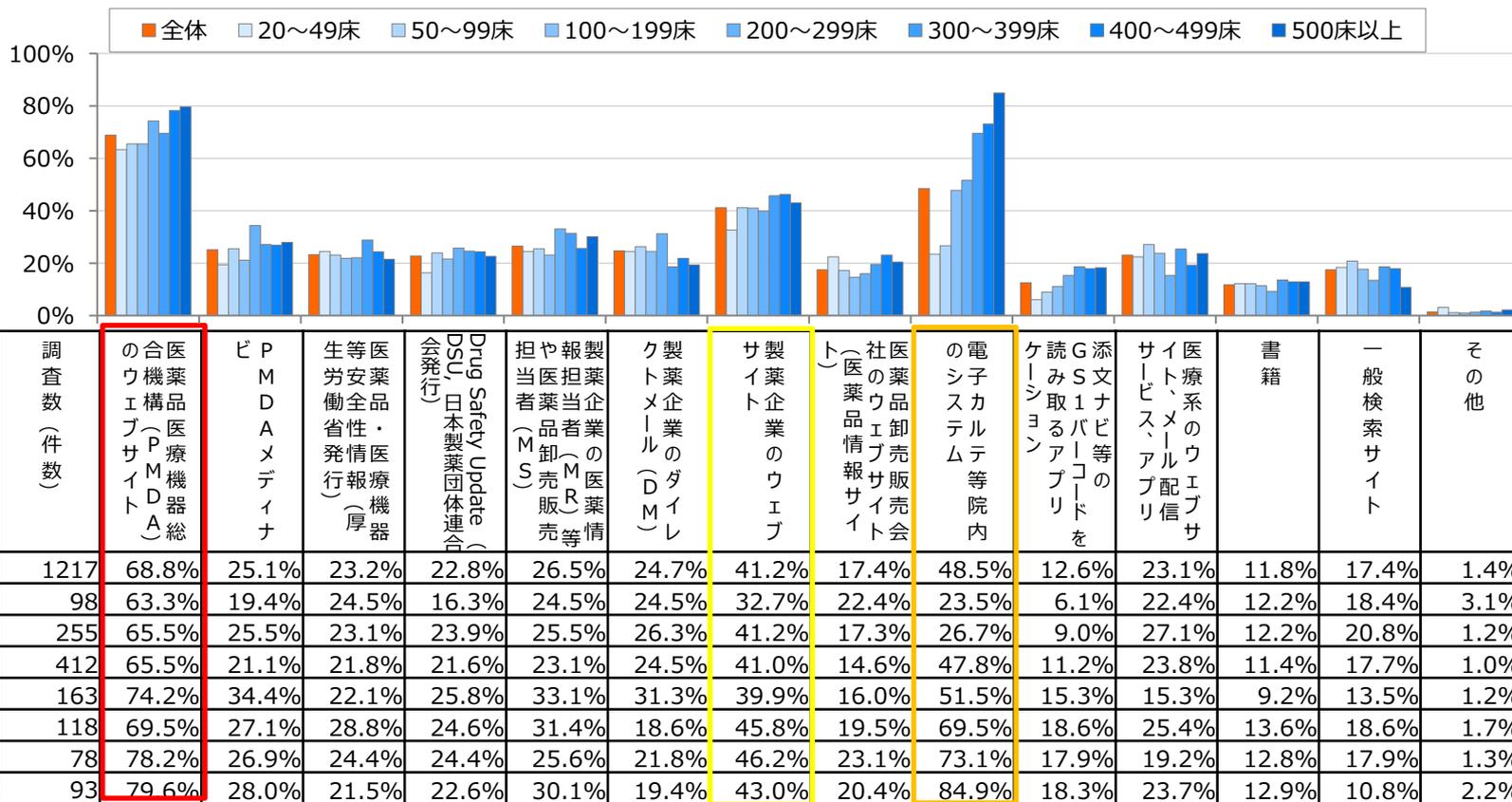
※無回答等、回答に不備があった場合、当該設問の集計対象から除外しているため、同一の回答施設を対象としている設問間で回答数が異なる場合がございます。

# 安全性情報の入手・伝達について

## ■情報の入手・伝達

Q1-1.病棟や調剤を担当されている薬剤師の方は、最新の電子化された添付文書（以下「電子添文」といいます。）やその他の医薬品安全性情報（適正使用情報等）を主にどの媒体から入手していますか。それぞれについてお答えください。（複数選択可）

《電子添文、病床数別》



全体では「医薬品医療機器総合機構（PMDA）のウェブサイト（68.8%）」、「電子カルテ等院内のシステム（48.5%）」、「製薬企業のウェブサイト（41.2%）」と回答した施設が多かった。一方、病床数別にみると、病床数が多い施設ほど「電子カルテ等院内のシステム」と回答する割合が高い傾向にあった。

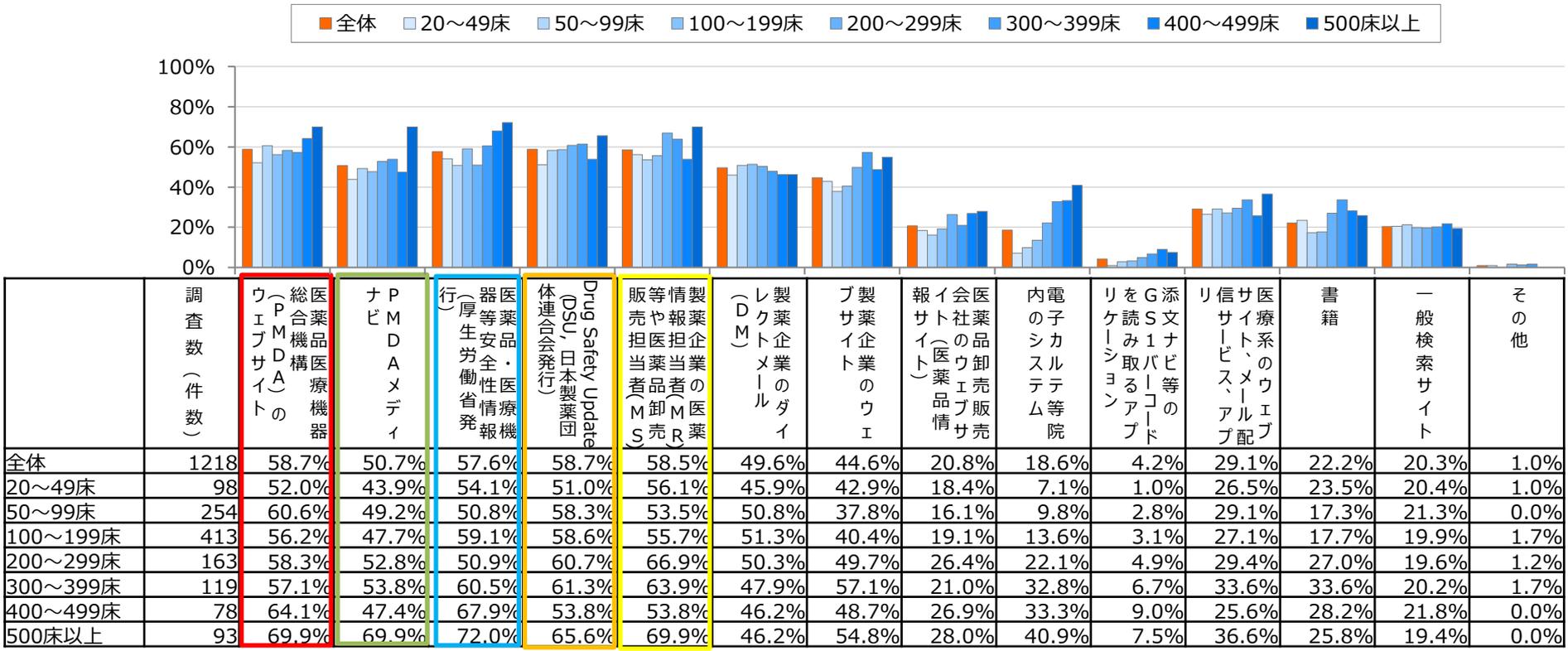


# 安全性情報の入手・伝達について

## ■ 情報の入手・伝達

Q1-1.病棟や調剤を担当されている薬剤師の方は、最新の電子化された添付文書（以下「電子添文」といいます。）やその他の医薬品安全性情報（適正使用情報等）を主にどの媒体から入手していますか。それぞれについてお答えください。（複数選択可）

《その他の医薬品安全性情報、病床数別》



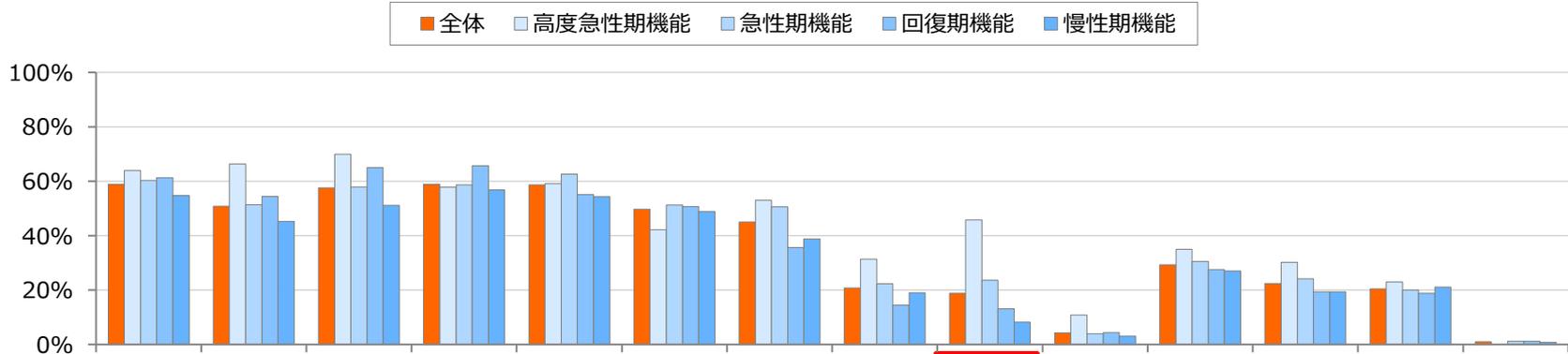
全体では「医薬品医療機器総合機構（PMDA）のウェブサイト（58.7%）」、「Drug Safety Update（DSU, 日本製薬団体連合会発行）（58.7%）」、「製薬企業の医薬情報担当者（MR）等や医薬品卸売販売担当者（MS）（58.5%）」、「医薬品・医療機器等安全性情報（厚生労働省発行）（57.6%）」、「PMDA メディナビ（50.7%）」と回答した施設が多かった。「電子カルテ等院内のシステム」は全体では18.6%であったが、病床数別にみると、病床数が多い施設ほど「電子カルテ等院内のシステム」と回答する割合が高い傾向にあり、500床以上の施設では40.9%であった。

# 安全性情報の入手・伝達について

## ■情報の入手・伝達

Q1-1. 病棟や調剤を担当されている薬剤師の方は、最新の電子化された添付文書（以下「電子添文」といいます。）やその他の医薬品安全性情報（適正使用情報等）を主にどの媒体から入手していますか。それぞれについてお答えください。（複数選択可）

《その他の医薬品安全性情報、病床機能別》



調査数（件数）	ウェブサイト（PMDA）の医薬品医療機器総合機構（PMDA）の医薬品医療機器総合機構（PMDA）の医薬品医療機器総合機構	PMDAメディアナビ	働省発行）	安全性情報（厚生労働省発行）	医薬品・医療機器等	Drug Safety Update (DSU, 日本製薬団体連合会発行)	(MS) 製薬企業（M/R）等や医薬品卸売販売担当者	製薬企業のダイレクタメール（DM）	製薬企業のウェブサイト	製薬企業のウェブサイト	医薬品卸売販売会社（医薬品情報サイト）	電子カルテ等院内のシステム	添文ナビ等のGS1バーコードを読み取るアプリケーション	医療系のウェブサービス、メール配信サービス	書籍	一般検索サイト	その他
全体	1212	58.9%	50.8%	57.5%	58.9%	58.7%	49.8%	45.0%	20.8%	18.8%	4.2%	29.3%	22.4%	20.4%	1.0%		
高度急性期機能	83	63.9%	66.3%	69.9%	57.8%	59.0%	42.2%	53.0%	31.3%	45.8%	10.8%	34.9%	30.1%	22.9%	0.0%		
急性期機能	580	60.3%	51.4%	57.9%	58.6%	62.6%	51.2%	50.5%	22.2%	23.6%	4.0%	30.5%	24.1%	20.0%	1.2%		
回復期機能	160	61.3%	54.4%	65.0%	65.6%	55.0%	50.6%	35.6%	14.4%	13.1%	4.4%	27.5%	19.4%	18.8%	1.3%		
慢性期機能	389	54.8%	45.2%	51.2%	56.8%	54.2%	48.8%	38.8%	19.0%	8.2%	3.1%	27.0%	19.3%	21.1%	0.8%		

病床機能別にみると、高度急性期機能の施設では「電子カルテ等院内のシステム」と回答する割合が高い傾向にあった。

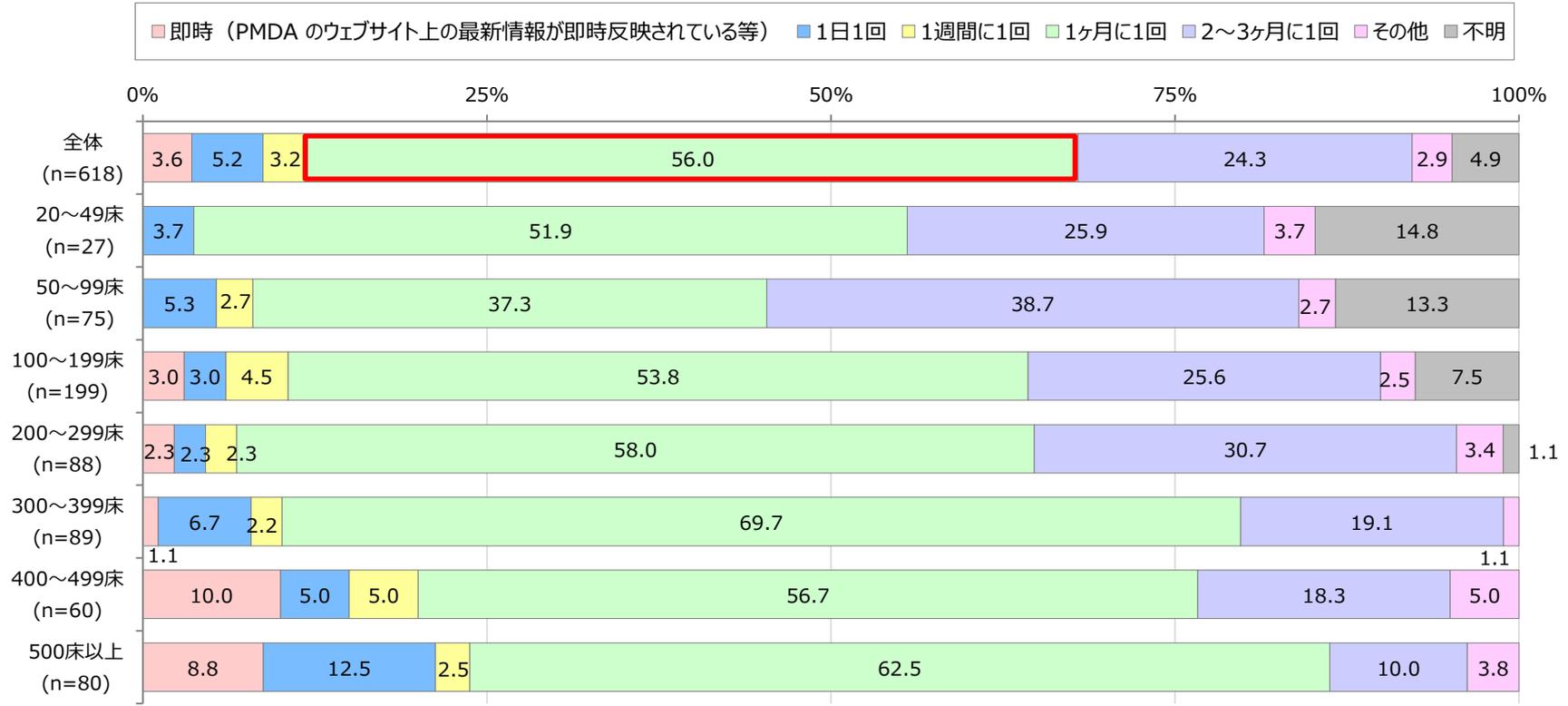
# 安全性情報の入手・伝達について

## ■ 情報の入手・伝達

Q1-2. 電子カルテ等院内のシステムの医薬品情報はどれくらいの頻度で更新されていますか。(1つ選択)  
 (回答対象：Q1-1で「電子カルテ等院内のシステム」と回答した施設)

\* 回答対象：Q1-1で「電子カルテ等院内のシステム」と回答した施設

《病床数別》



電子カルテ等院内のシステムの医薬品情報の更新頻度は、全体では「1ヶ月に1回」が56.0%と最も多く、次いで「2~3ヶ月に1回 (24.3%)」が挙げられた。即時と回答した施設は3.6%であったが、病床別にみると、400床以上の施設では即時と回答した施設の割合は他より高い傾向にあった。

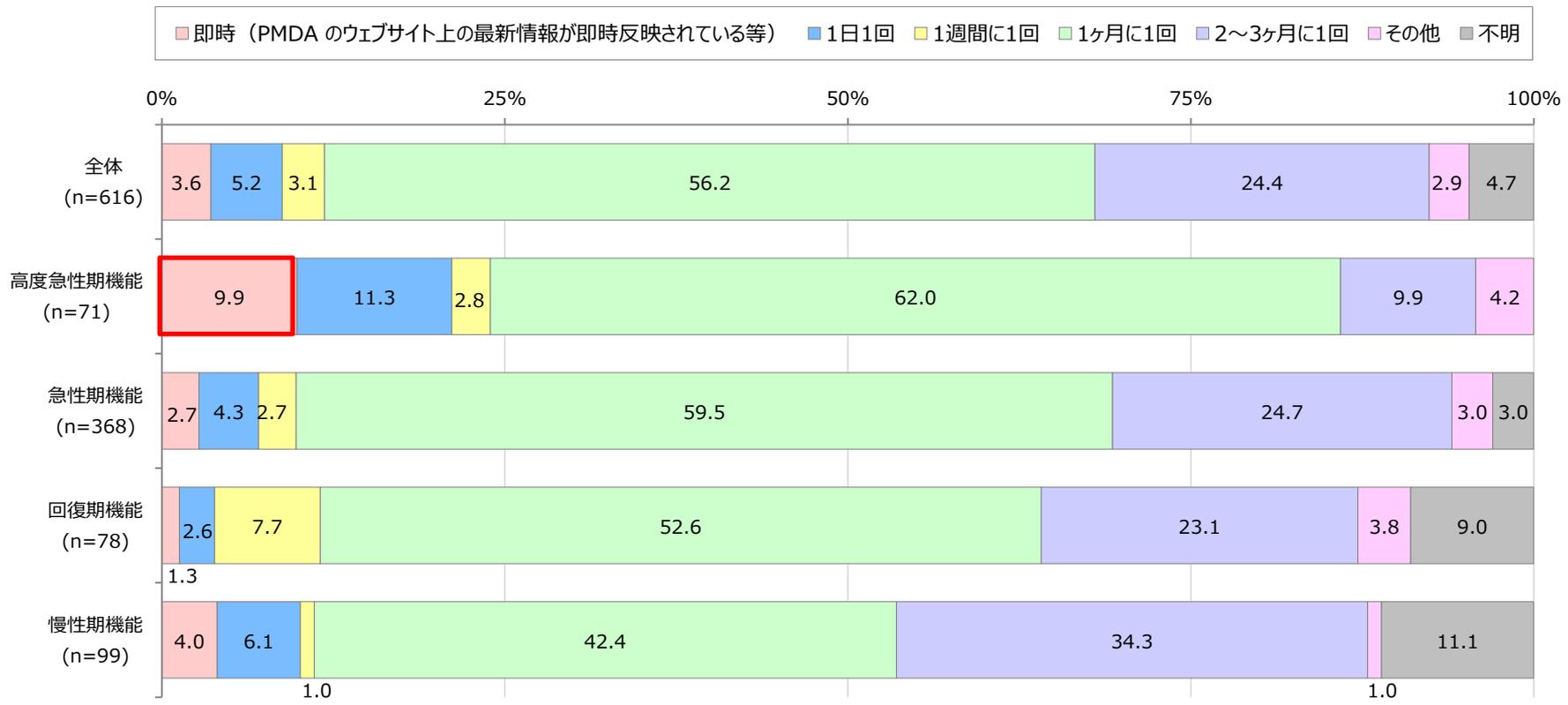
# 安全性情報の入手・伝達について

## ■ 情報の入手・伝達

Q1-2. 電子カルテ等院内のシステムの医薬品情報はどれくらいの頻度で更新されていますか。(1つ選択)  
 (回答対象：Q1-1で「電子カルテ等院内のシステム」と回答した施設)

\* 回答対象：Q1-1で「電子カルテ等院内のシステム」と回答した施設

《病床機能別》



病床機能別にみると、高度急性期機能の施設では即時と回答した施設の割合は他より高い傾向にあった。

# 安全性情報の入手・伝達について

## ■ 情報の入手・伝達

Q1-3. 個別の製品についての医薬品安全性情報を入手する際、次の目的のために利用している資料はどれですか。それぞれ選択肢から当てはまるものを、よく利用している順番に3つまで選択してください。

### 医薬品の概要を得る

- ◆ 最もよく利用 (n=1,253)  
1位: 電子添文 (81.5%)  
2位: 医薬品インタビューフォーム (6.0%)  
3位: 書籍 (3.8%)
- ◆ 2番目 (n=1,197)  
1位: 医薬品インタビューフォーム (50.2%)  
2位: 製薬企業のウェブサイト (11.8%)  
3位: 電子添文 (7.8%)
- ◆ 3番目 (n=1,121)  
1位: 製薬企業のウェブサイト (19.7%)  
2位: 製薬企業のコールセンター、  
医薬情報担当者(MR) (15.1%)  
3位: 医薬品インタビューフォーム (13.5%)

### 副作用の情報を得る (症状、頻度、対処法など)

- ◆ 最もよく利用 (n=1,253)  
1位: 電子添文 (77.9%)  
2位: 医薬品インタビューフォーム (10.9%)  
3位: 製薬企業のコールセンター、  
医薬情報担当者(MR) (2.2%)
- ◆ 2番目 (n=1,179)  
1位: 医薬品インタビューフォーム (41.0%)  
2位: 製薬企業のコールセンター、  
医薬情報担当者(MR) (11.7%)  
3位: 製薬企業のウェブサイト (9.1%)
- ◆ 3番目 (n=1,090)  
1位: 製薬企業のコールセンター、  
医薬情報担当者(MR) (23.2%)  
2位: 製薬企業のウェブサイト (12.6%)  
3位: 医薬品リスク管理計画 (RMP)  
(RMP資材含む) (11.8%)

### 用法用量の情報を得る (用量調整など)

- ◆ 最もよく利用 (n=1,253)  
1位: 電子添文 (88.8%)  
2位: 書籍 (3.8%)  
3位: 医薬品インタビューフォーム (2.4%)
- ◆ 2番目 (n=1,152)  
1位: 医薬品インタビューフォーム (37.9%)  
2位: 書籍 (11.9%)  
3位: 学会ガイドライン、学会のウェブサイト  
(9.5%)
- ◆ 3番目 (n=1,059)  
1位: 製薬企業のウェブサイト (22.2%)  
2位: 学会ガイドライン、学会のウェブサイト  
(15.6%)  
3位: 製薬企業のウェブサイト (12.9%)

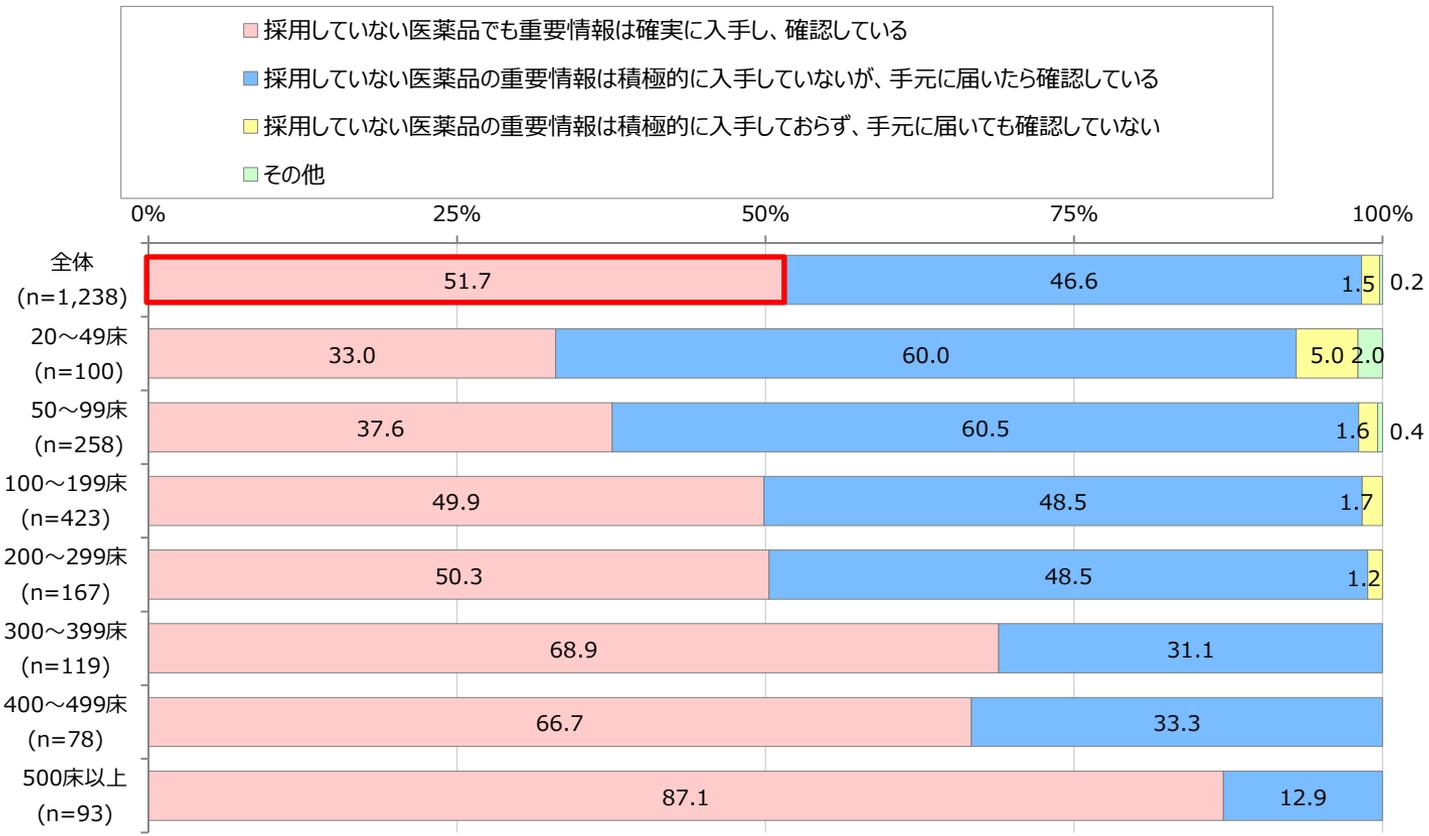
医薬品の概要を得る、副作用の情報を得る、用法用量の情報を得る、いずれの目的でも最もよく利用している資料としては「電子添文」が最も多かった。2番目に利用するものにはいずれの目的においても「医薬品インタビューフォーム」が最も多かった。

# 安全性情報の入手・伝達について

## ■ 情報の入手・伝達

Q1-4.貴施設では、院内採用していない医療用医薬品について、イエローレター・ブルーレター、PMDAからの医薬品適正使用のお願い、製薬企業からの医薬品の適正使用に関するお知らせ（以下、重要情報といいます。）をどのように収集していますか。（1つ選択）

《イエローレター・ブルーレター、病床数別》



イエローレター・ブルーレターを「採用していない医薬品でも重要情報は確実に入手し、確認している」と回答した施設は51.7%であった。病床数別にみると、病床数が多い施設ほどその割合が高い傾向にあった。

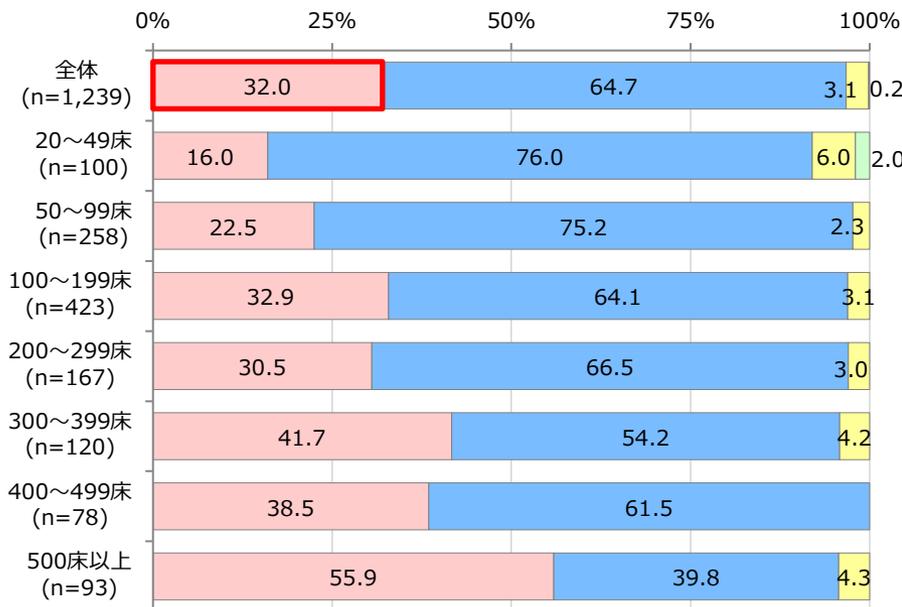
# 安全性情報の入手・伝達について

## ■ 情報の入手・伝達

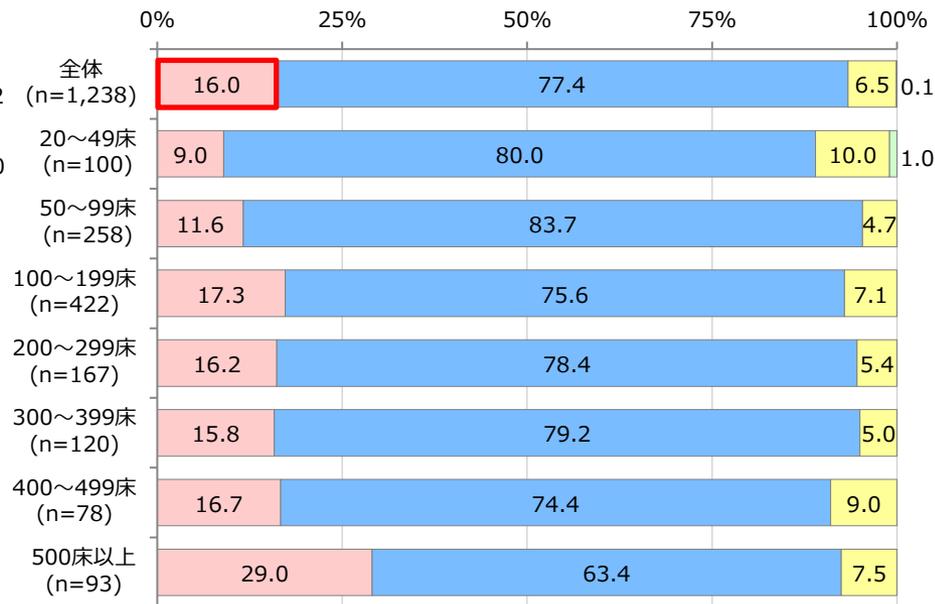
Q1-4. 貴施設では、院内採用していない医療用医薬品について、イエローレター・ブルーレター、PMDAからの医薬品適正使用のお願い、製薬企業からの医薬品の適正使用に関するお知らせ（以下、重要情報といいます。）をどのように収集していますか。（1つ選択）

- 採用していない医薬品でも重要情報は確実に入手し、確認している
- 採用していない医薬品の重要情報は積極的に入手していないが、手元に届いたら確認している
- 採用していない医薬品の重要情報は積極的に入手しておらず、手元に届いても確認していない
- その他

《PMDAからの医薬品適正使用のお願い、病床数別》



《製薬企業からの医薬品の適正使用に関するお知らせ、病床数別》



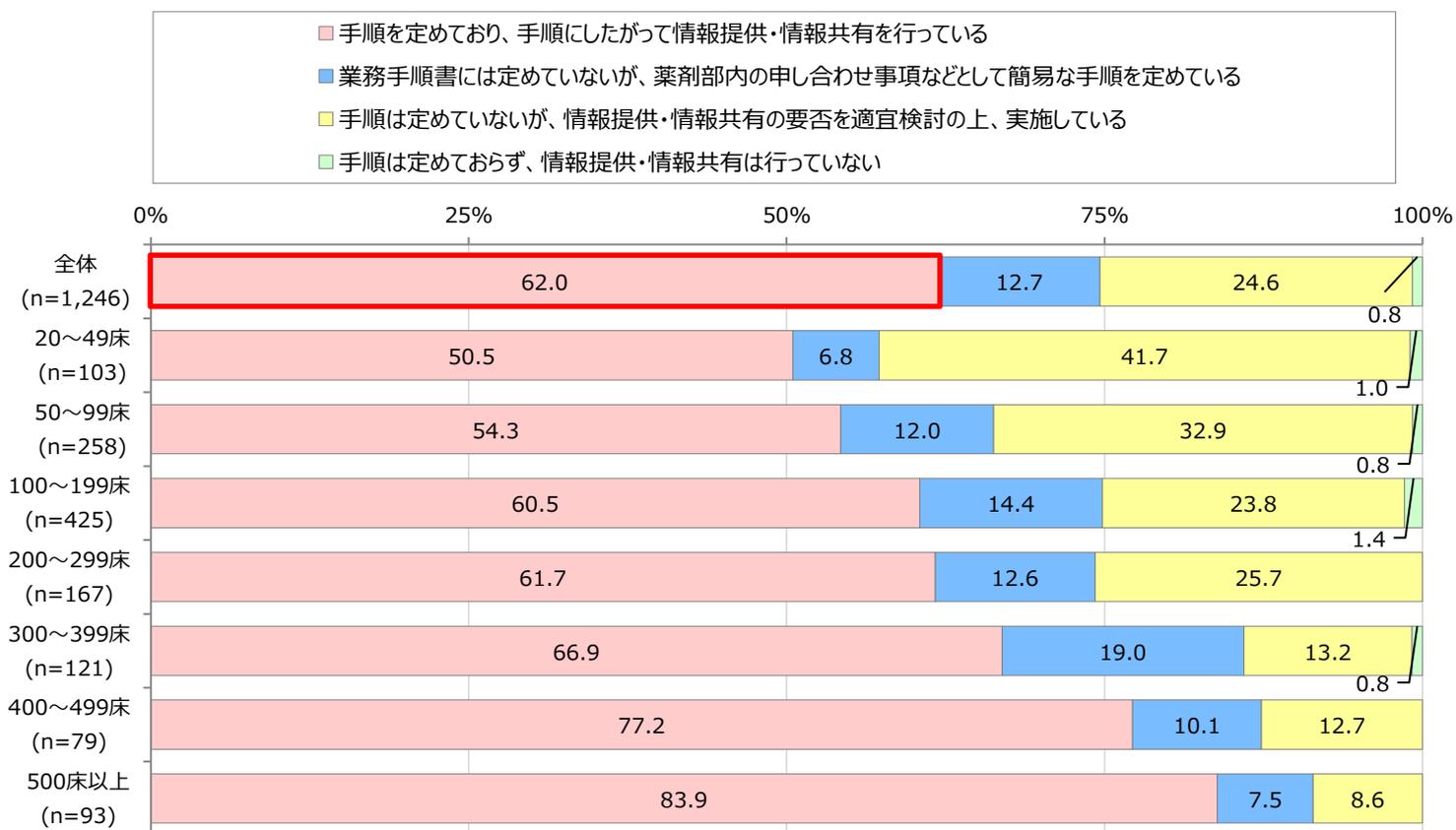
PMDAからの医薬品適正使用のお願いを「採用していない医薬品でも重要情報は確実に入手し、確認している」と回答した施設は32.0%、製薬企業からの医薬品の適正使用に関するお知らせでは16.0%であった。

# 安全性情報の入手・伝達について

## ■ 情報の入手・伝達

Q1-5.PMDAメディアナビ等から安全性情報入手した際に、院内への情報伝達について、伝達対象・方法等を医薬品の安全使用のための業務手順書に定めていますか。(1つ選択)

《病床数別》



情報伝達の「手順を定めており、手順にしたがって情報提供・情報共有を行っている」と回答した施設は62.0%であり、前回調査時（70.4%）と大きく変わらなかった。病床数別にみると、病床数が多い施設ほど手順にしたがって情報共有・情報提供を行っている割合が高い傾向にあった。

## ■ 情報の入手・伝達（まとめ） 1/2

- 最新の電子添文の入手先としては「医薬品医療機器総合機構（PMDA）のウェブサイト（68.8%）」、「電子カルテ等院内のシステム（48.5%）」、「製薬企業のウェブサイト（41.2%）」が多かった。また、病床数が多い施設ほど「電子カルテ等院内のシステム」が多くなる傾向にあった。
- 電子添文以外の医薬品安全性情報の入手先としては「医薬品医療機器総合機構（PMDA）のウェブサイト（58.7%）」、「Drug Safety Update（DSU, 日本製薬団体連合会発行）（58.7%）」、「製薬企業の医薬情報担当者（MR）等や医薬品卸売販売担当者（MS）（58.5%）」、「医薬品・医療機器等安全性情報（厚生労働省発行）（57.6%）」が多かった。
- 情報の入手先を電子カルテ等院内のシステムと回答した施設の情報の更新頻度は、「1ヶ月に1回」が56.0%と最も多く、次いで「2～3ヶ月に1回（24.3%）」が挙げられた。
- 医薬品の概要を得る、副作用の情報を得る、用法用量の情報を得る、いずれの目的でも最もよく利用している資料としては「電子添文」が最も多かった。2番目に利用するものにはいずれの目的においても「医薬品インタビューフォーム」が最も多かった。

# 安全性情報の入手・伝達について

## ■ 情報の入手・伝達（まとめ） 2/2

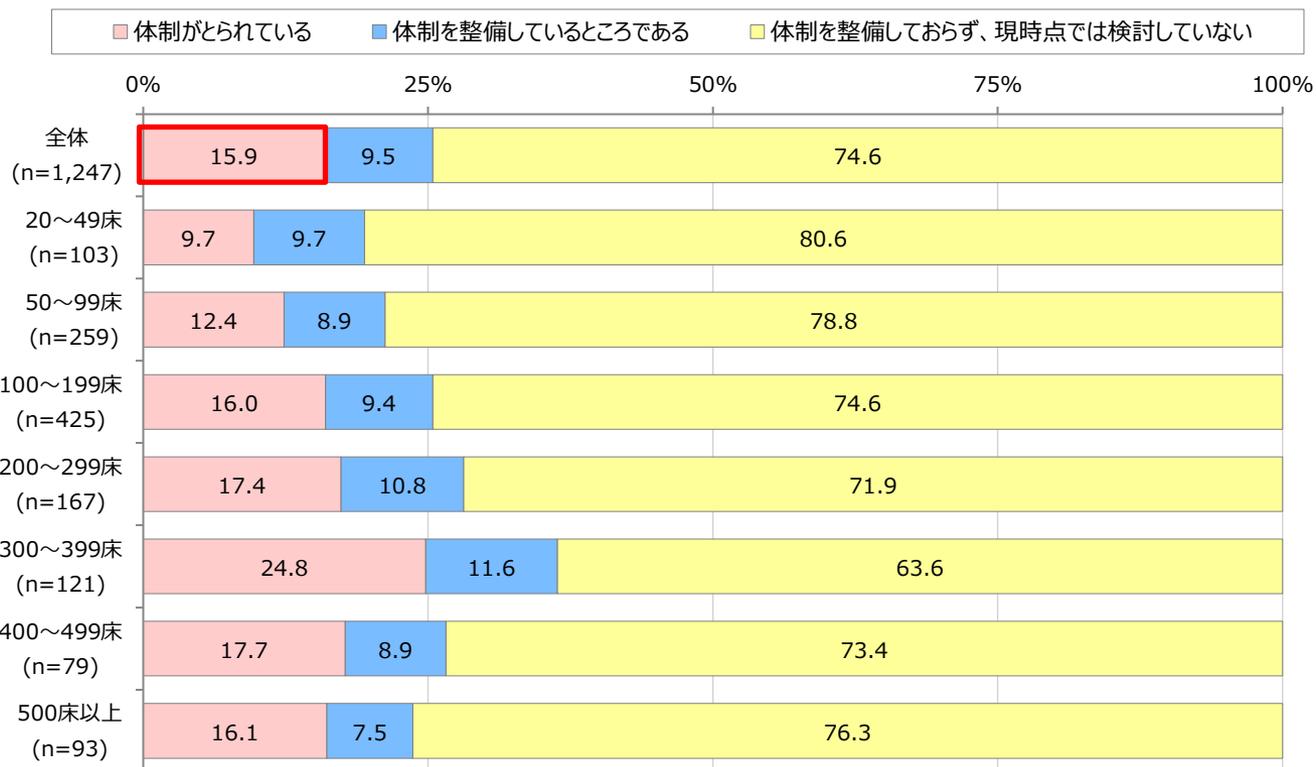
- 院内採用していない医療用医薬品の「イエローレター・ブルーレター」について、確実に入手している施設は51.7%であり、病床数が多い施設ほどその割合は高くなる傾向にあった。また、院内採用していない「PMDAからの医薬品適正使用のお願い」を確実に入手している施設は32.0%、「製薬企業からの医薬品の適正使用に関するお知らせ」を確実に入手している施設は16.0%であった。
- 安全性情報を入手した際の院内への情報伝達について、伝達対象・方法等を医薬品の安全使用のための業務手順書に定めっていると回答した施設は62.0%であり、前回調査時（70.4%）と大きく変わらなかった。

# 安全性情報の入手・伝達について

## ■ 添付文書の電子化

Q2-1. 貴施設では、添文ナビなど製品のバーコード（GS1バーコード）を読み取ることで最新の添付文書に電子的にアクセスできるアプリについて、手順書にアプリの使用が明記されている、タブレットが配布されている、自身のスマートフォンにダウンロードして業務中使用することが許可されているなど、組織としてアプリを利用する体制がとられていますか。（1つ選択）

《病床数別》



アプリを利用する体制がとられていると回答した施設は15.9%であり、前回調査時（19.8%）と大きく変わらなかった。病床数による大きな違いはなかった。

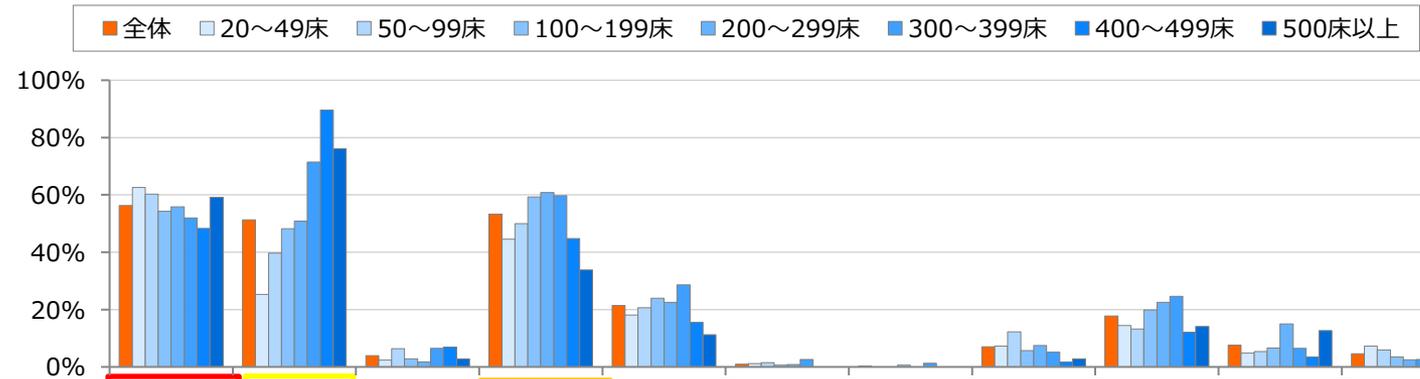
# 安全性情報の入手・伝達について

## ■ 添付文書の電子化

### Q2-2. 体制を整備していない理由を教えてください。（複数選択可）

\* 回答対象：Q2-1で「体制を整備しておらず、現時点では検討していない」と回答した施設

#### 《病床数別》



調査数 (件数)	新規ウェブサイトの追加機能に関するコメント	院内電子カルテの導入	アプリを利用しない理由	業務で使用するためのタブレット等の準備が困難	タブレット等の準備が困難	その他						
全体	930	56.3%	51.3%	4.0%	53.3%	21.4%	1.0%	0.3%	7.0%	17.7%	7.5%	4.6%
20~49床	83	62.7%	25.3%	2.4%	44.6%	18.1%	1.2%	0.0%	7.2%	14.5%	4.8%	7.2%
50~99床	204	60.3%	39.7%	6.4%	50.0%	20.6%	1.5%	0.0%	12.3%	13.2%	5.4%	5.9%
100~199床	317	54.3%	48.3%	2.8%	59.3%	24.0%	0.6%	0.6%	5.7%	19.9%	6.6%	3.5%
200~299床	120	55.8%	50.8%	1.7%	60.8%	22.5%	0.8%	0.0%	7.5%	22.5%	15.0%	2.5%
300~399床	77	51.9%	71.4%	6.5%	59.7%	28.6%	2.6%	1.3%	5.2%	24.7%	6.5%	2.6%
400~499床	58	48.3%	89.7%	6.9%	44.8%	15.5%	0.0%	0.0%	1.7%	12.1%	3.4%	5.2%
500床以上	71	59.2%	76.1%	2.8%	33.8%	11.3%	0.0%	0.0%	2.8%	14.1%	12.7%	8.5%

体制の整備またはその検討をしていない施設では、その理由を「アプリを利用しなくてもPMDAウェブサイト最新の添付文書閲覧できるから (56.3%)」、「業務で使用するためのタブレット等を準備することが困難だから (53.3%)」、「電子カルテなど院内のシステムで閲覧できるから (51.3%)」と回答した施設が多かった。

## ■ 添付文書の電子化（まとめ）

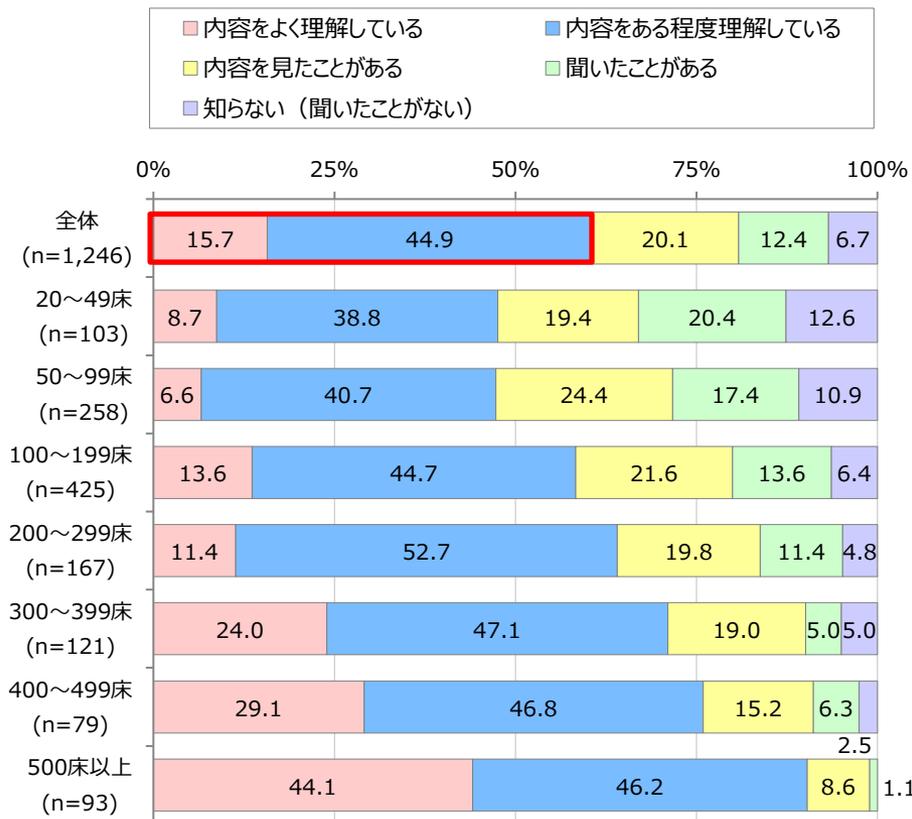
- アプリを利用する体制がとられていると回答した施設は15.9%であり、前回調査時（19.8%）と変わらなかった。
- 体制を整備していない理由としては「アプリを利用しなくても PMDAウェブサイトで最新の添付文書を閲覧できるから（56.3%）」、「業務で使うためのタブレット等を準備することが困難だから（53.3%）」「電子カルテなど院内のシステムで閲覧できるから（51.3%）」などが挙げられていた。

# リスクコミュニケーションツールについて

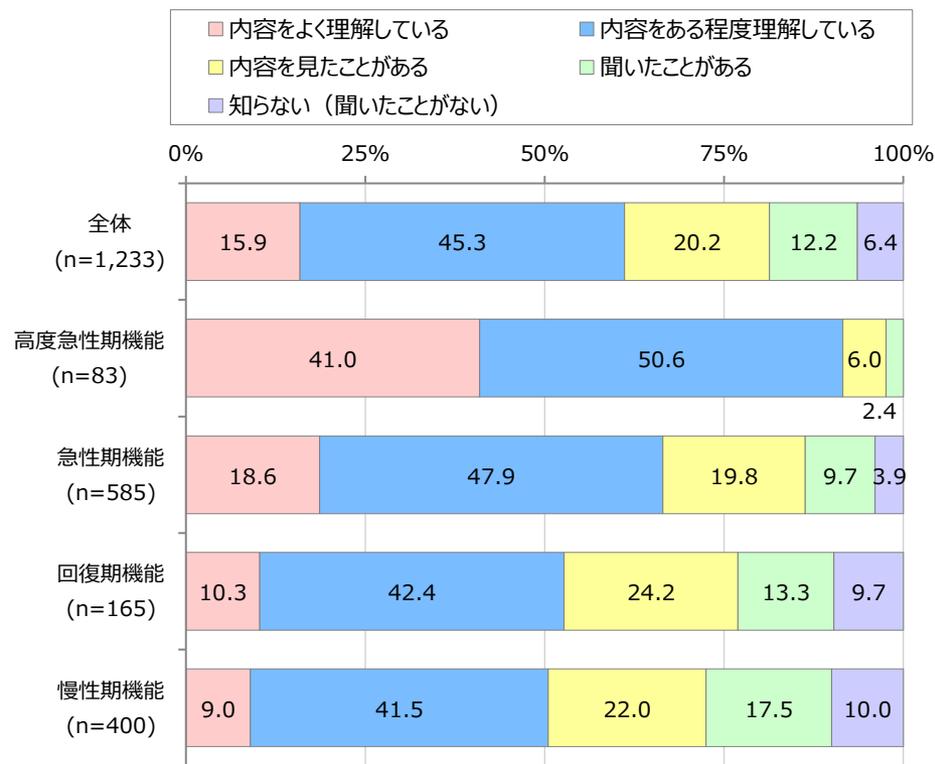
## ■ 医薬品リスク管理計画（RMP）

### Q3-1. 「RMP」をご存じですか。（1つ選択）

《病床数別》



《病床機能別》



RMPを認知している施設※は93.3%であった。RMPの内容を理解している施設※※は60.6%で、前回調査時（54.4%）からやや向上していることがうかがわれた。病床数別にみると、病床数が多い施設ほどその割合が高い傾向にあった。病床機能別にみると、高度急性期機能、急性期機能の施設でその割合が高い傾向にあった。

※ 「内容をよく理解している」「内容をある程度理解している」「内容を見たことがある」「聞いたことがある」と回答した施設の合計（以降も同様）

※※ 「内容をよく理解している」「内容をある程度理解している」と回答した施設の合計（以降も同様）

# リスクコミュニケーションツールについて

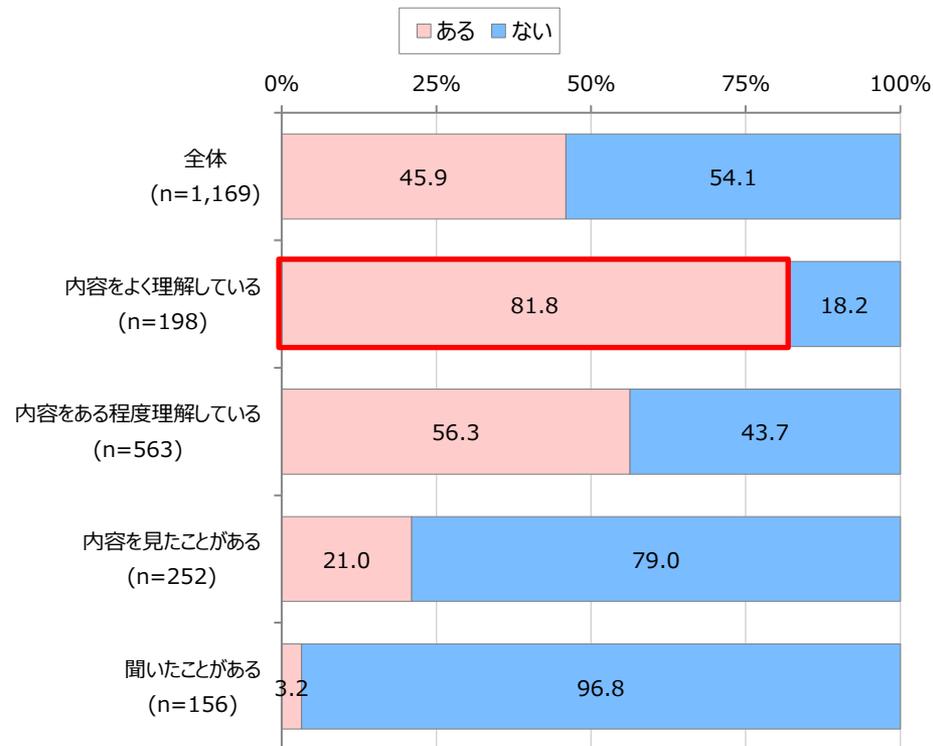
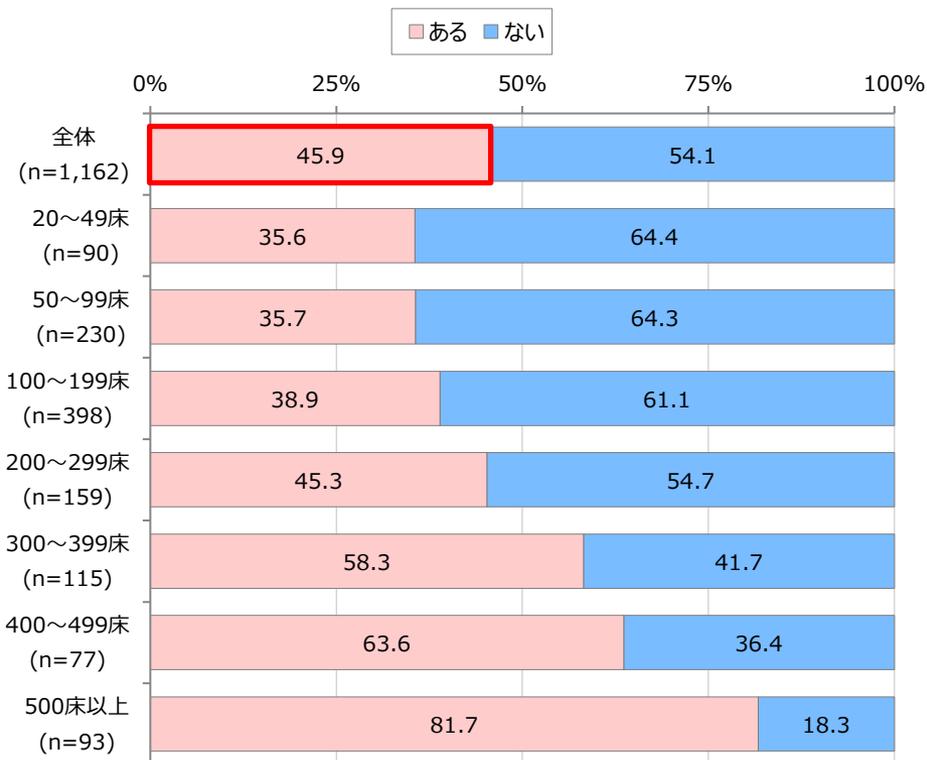
## ■ 医薬品リスク管理計画（RMP）

Q3-2. 貴施設において、「RMP」を業務に活用したことはありますか（「RMP資材」については別途お尋ねします）。  
（1つ選択）

\* 回答対象：Q3-1で「内容をよく理解している」「内容をある程度理解している」「内容を見たことがある」「聞いたことがある」と回答した施設

《病床数別》

《RMP理解度別》



RMPを認知している施設の45.9%がRMPを業務に活用したことがあると回答し、病床数別にみると、病床数が多い施設ほどその割合が高い傾向にあった。RMP理解度別にみると、内容をよく理解している施設では、81.8%の施設がRMPを活用したことがあると回答した。

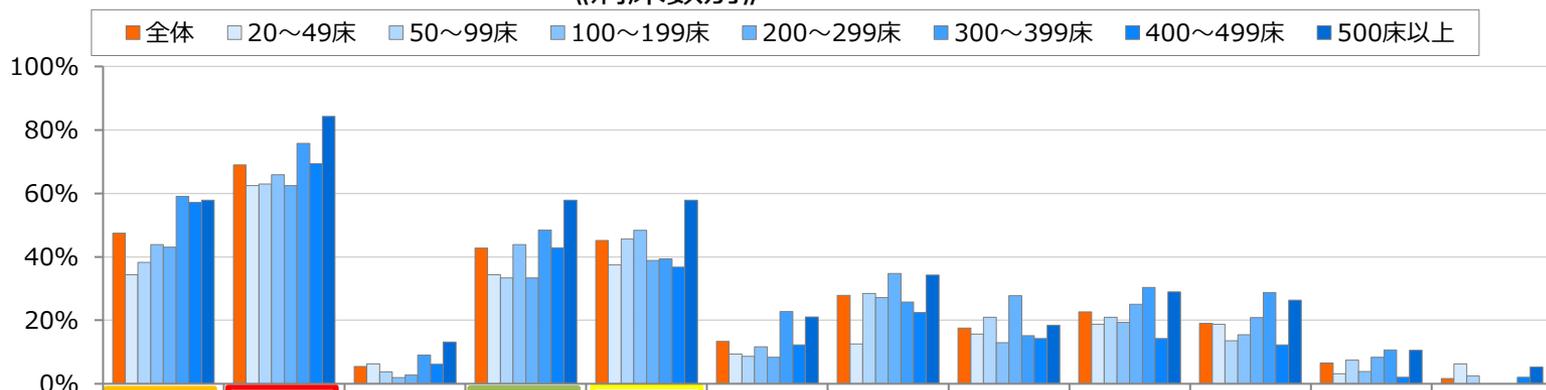
（参考）RMPの内容を理解している施設における活用率は62.9%で、前回調査時（61.2%）と大きく変わらなかった。

# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 医薬品リスク管理計画（RMP）

Q3-3. 貴施設において、どのようなときにRMPを閲覧するのか教えてください（「RMP資材」については別途お尋ねします）。  
 （複数選択可） \* 回答対象：Q3-2で「RMPを業務に活用したことがある」と回答した施設

《病床数別》



	調査数 (件数)	把握を小視する計画と画のり全体	安全性検討事項、リスク最小化計画の全体把握	新薬採用時のリスクの把握	製造販売後の調査等	副作用原因薬剤評価	医師等からの問合せ	副作用をモニタリング	院内でのユース等	勉強会、研修会を開く	掲載されたRMPの更新	PMDAのウェブページ	PMPの更新	インタビュー	その他
全体	531	47.5%	68.9%	5.5%	42.7%	45.2%	13.4%	27.9%	17.5%	22.6%	19.0%	6.6%	1.7%		
20~49床	32	34.4%	62.5%	6.3%	34.4%	37.5%	9.4%	12.5%	15.6%	18.8%	18.8%	3.1%	6.3%		
50~99床	81	38.3%	63.0%	3.7%	33.3%	45.7%	8.6%	28.4%	21.0%	21.0%	13.6%	7.4%	2.5%		
100~199床	155	43.9%	65.8%	1.9%	43.9%	48.4%	11.6%	27.1%	12.9%	19.4%	15.5%	3.9%	0.0%		
200~299床	72	43.1%	62.5%	2.8%	33.3%	38.9%	8.3%	34.7%	27.8%	25.0%	20.8%	8.3%	0.0%		
300~399床	66	59.1%	75.8%	9.1%	48.5%	39.4%	22.7%	25.8%	15.2%	30.3%	28.8%	10.6%	0.0%		
400~499床	49	57.1%	69.4%	6.1%	42.9%	36.7%	12.2%	22.4%	14.3%	14.3%	12.2%	2.0%	2.0%		
500床以上	76	57.9%	84.2%	13.2%	57.9%	57.9%	21.1%	34.2%	18.4%	28.9%	26.3%	10.5%	5.3%		

RMPを業務に活用したことがある施設では、RMPを「新薬採用時のリスクの把握をするとき」に閲覧しているとの回答が最も多かった（68.9%）。次いで「安全性検討事項、安全性監視計画、リスク最小化計画の全体把握をするとき（47.5%）」、「医師等からの問合せに対応するとき（45.2%）」、「副作用原因薬剤評価をするとき（42.8%）」が挙げられた。

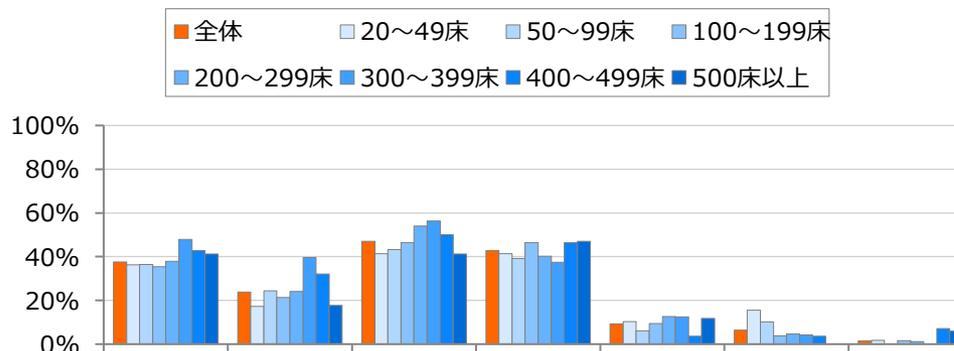
# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 医薬品リスク管理計画 (RMP)

Q3-4. 「RMP」を業務に活用したことがない理由について教えてください。(複数選択可)

\* 回答対象：Q3-2で「RMPを業務に活用したことがない」と回答した施設

《病床数別》



	調査数 (件数)	具体的な活用方法がわからないから	添付文書やインタビューフォームなどの他の情報で十分であるから	活用する機会がないから	内容が難しく分量が多いから	その他	入力方法がわからないから	その他
全体	629	37.5%	47.1%	42.8%	9.2%	1.4%	6.4%	1.4%
20~49床	58	36.2%	41.4%	41.4%	10.3%	1.7%	15.5%	1.7%
50~99床	148	36.5%	43.2%	39.2%	6.1%	0.0%	10.1%	0.0%
100~199床	243	35.4%	46.5%	46.5%	9.5%	1.6%	3.7%	1.6%
200~299床	87	37.9%	54.0%	40.2%	12.6%	1.1%	4.6%	1.1%
300~399床	48	47.9%	56.3%	37.5%	12.5%	0.0%	4.2%	0.0%
400~499床	28	42.9%	50.0%	46.4%	3.6%	7.1%	3.6%	7.1%
500床以上	17	41.2%	41.2%	47.1%	11.8%	5.9%	0.0%	5.9%

RMPを業務に活用したことがない施設では、その理由は「添付文書やインタビューフォームなどの他の情報で十分であるから」が47.1%と最も多く、次いで「活用する機会がないから (42.8%)」、「具体的にどのように活用するのかわからないから (37.5%)」が挙げられた。

# リスクコミュニケーションツールについて

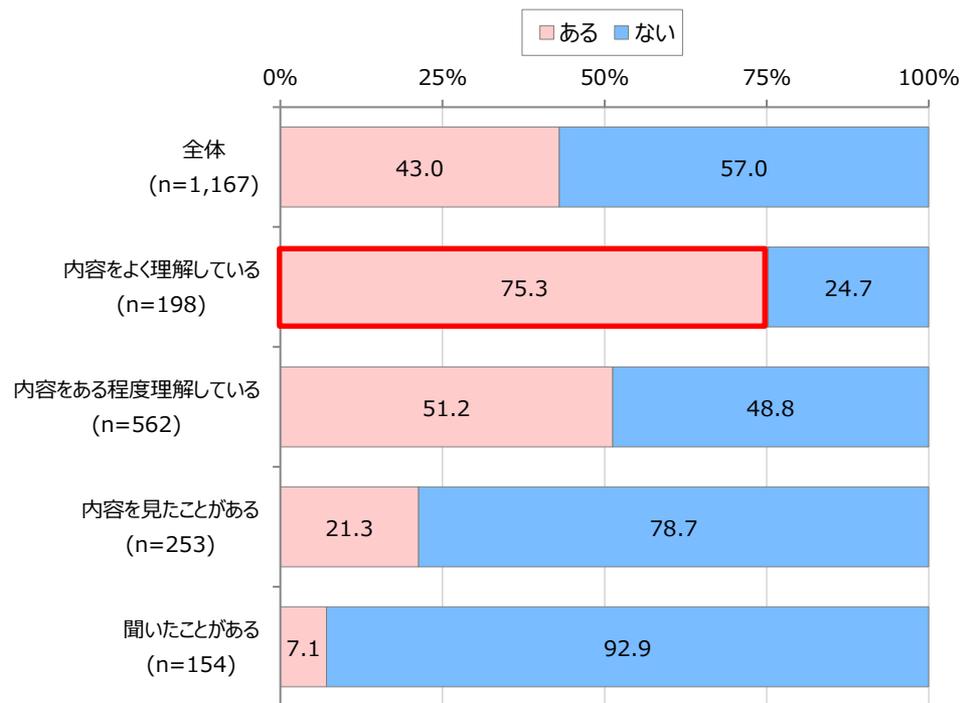
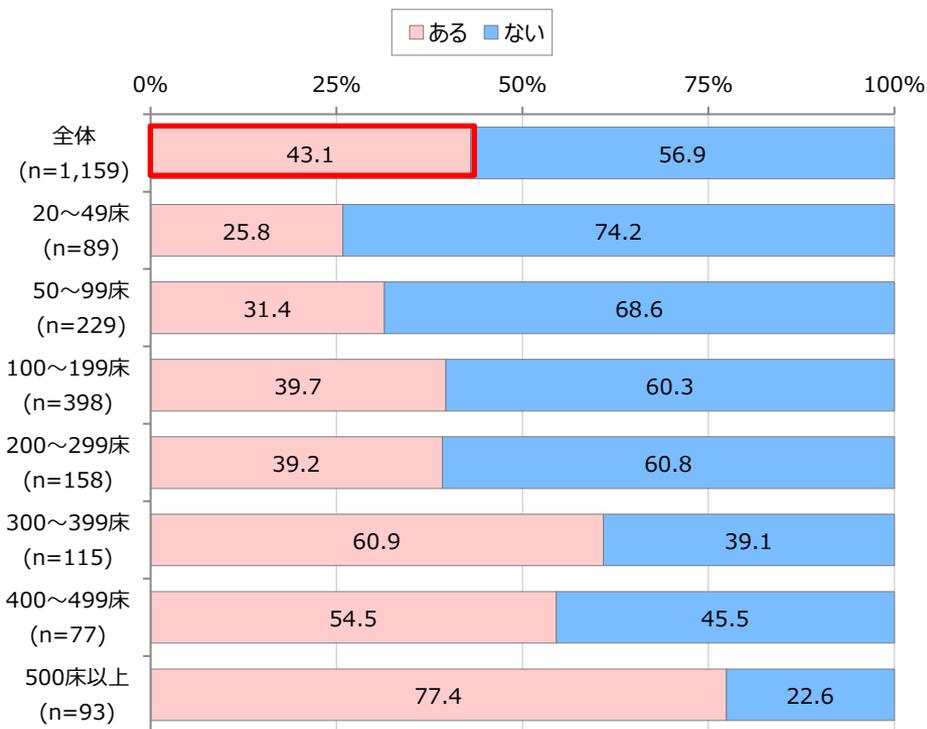
## ■ 医薬品リスク管理計画（RMP）

### Q3-5. 「RMP資材」を業務に活用したことはありますか。（1つ選択）

\* 回答対象：Q3-1で「内容をよく理解している」「内容をある程度理解している」「内容を見たことがある」「聞いたことがある」と回答した施設

《病床数別》

《RMP理解度別》



RMPを認知している施設では、43.1%の施設がRMP資材を活用したことがあると回答した。病床数別にみると、病床数が多い施設ほどその割合が高い傾向にあった。RMP理解度別にみると、内容をよく理解している施設では、75.3%の施設がRMPを活用したことがあると回答した。

（参考）RMPの内容を理解している施設における活用率は、57.5%であり、前回調査時（53.7%）と大きく変わらなかった。

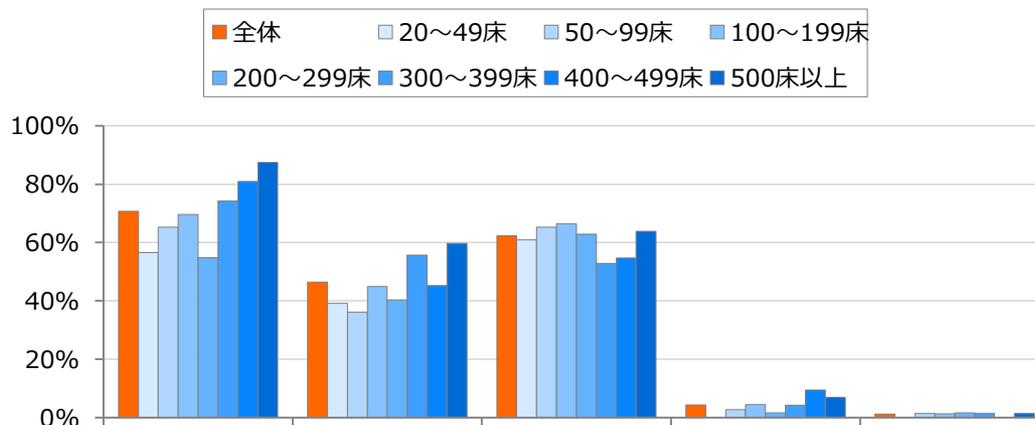
# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 医薬品リスク管理計画（RMP）

Q3-6. 貴施設において、「RMP資材」について、業務に活用した事例を教えてください。（複数選択可）

\* 回答対象：Q3-5で「RMP資材」を業務に活用したことがある」と回答した施設

《病床数別》



	調査数（件数）	患者向け資材を服薬指導に利用した	患者向け資材を薬剤交付時に配布した	医療従事者向け資材を院内への情報共有・提供に利用した	医療従事者向け資材を院外の施設（地域医療機関・薬局など）への情報共有・提供に利用した	その他
全体	499	70.7%	46.5%	62.3%	4.4%	1.2%
20~49床	23	56.5%	39.1%	60.9%	0.0%	0.0%
50~99床	72	65.3%	36.1%	65.3%	2.8%	1.4%
100~199床	158	69.6%	44.9%	66.5%	4.4%	1.3%
200~299床	62	54.8%	40.3%	62.9%	1.6%	1.6%
300~399床	70	74.3%	55.7%	52.9%	4.3%	1.4%
400~499床	42	81.0%	45.2%	54.8%	9.5%	0.0%
500床以上	72	87.5%	59.7%	63.9%	6.9%	1.4%

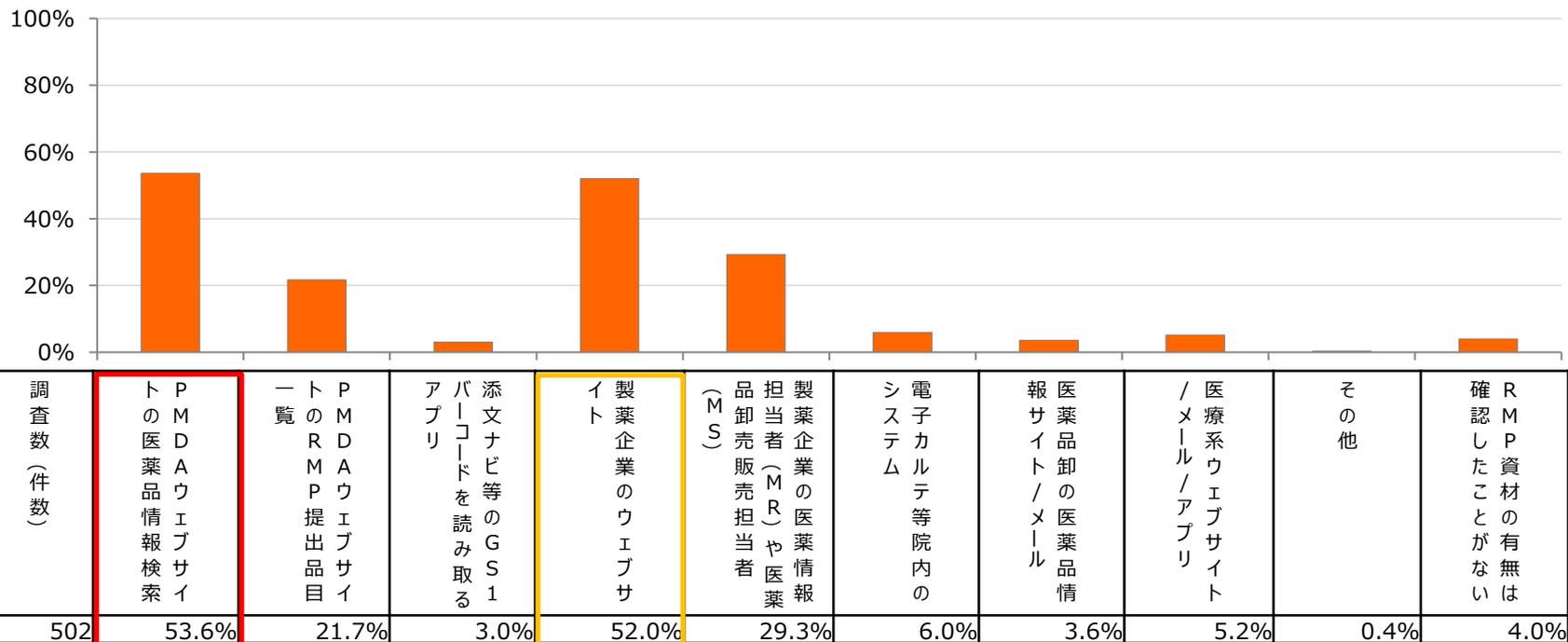
RMP資材を業務に活用したことがある施設では、「患者向け資材を服薬指導に利用した」が70.7%で最も多く、次いで「医療従事者向け資材を院内への情報共有・提供に利用した」が62.3%であった。また、46.5%の施設が「患者向け資材を薬剤交付時に配布した」と回答した。

# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 医薬品リスク管理計画 (RMP)

Q3-7.RMP資材の有無をどのように確認していますか。PMDAウェブサイト等でRMP資材の有無を確認し、企業に紙媒体提供依頼する場合、『PMDAウェブサイトの医薬品情報検索』または『PMDAウェブサイトのRMP提出品目一覧』を選択してください。(複数選択可)

\* 回答対象：Q3-5で「RMP資材」を業務に活用したことがある」と回答した施設



RMP資材を業務に活用したことがある施設では、「PMDA ウェブサイトの医薬品情報検索 (53.6%)」、「製薬企業のウェブサイト (52.0%)」と回答した施設が多かった。

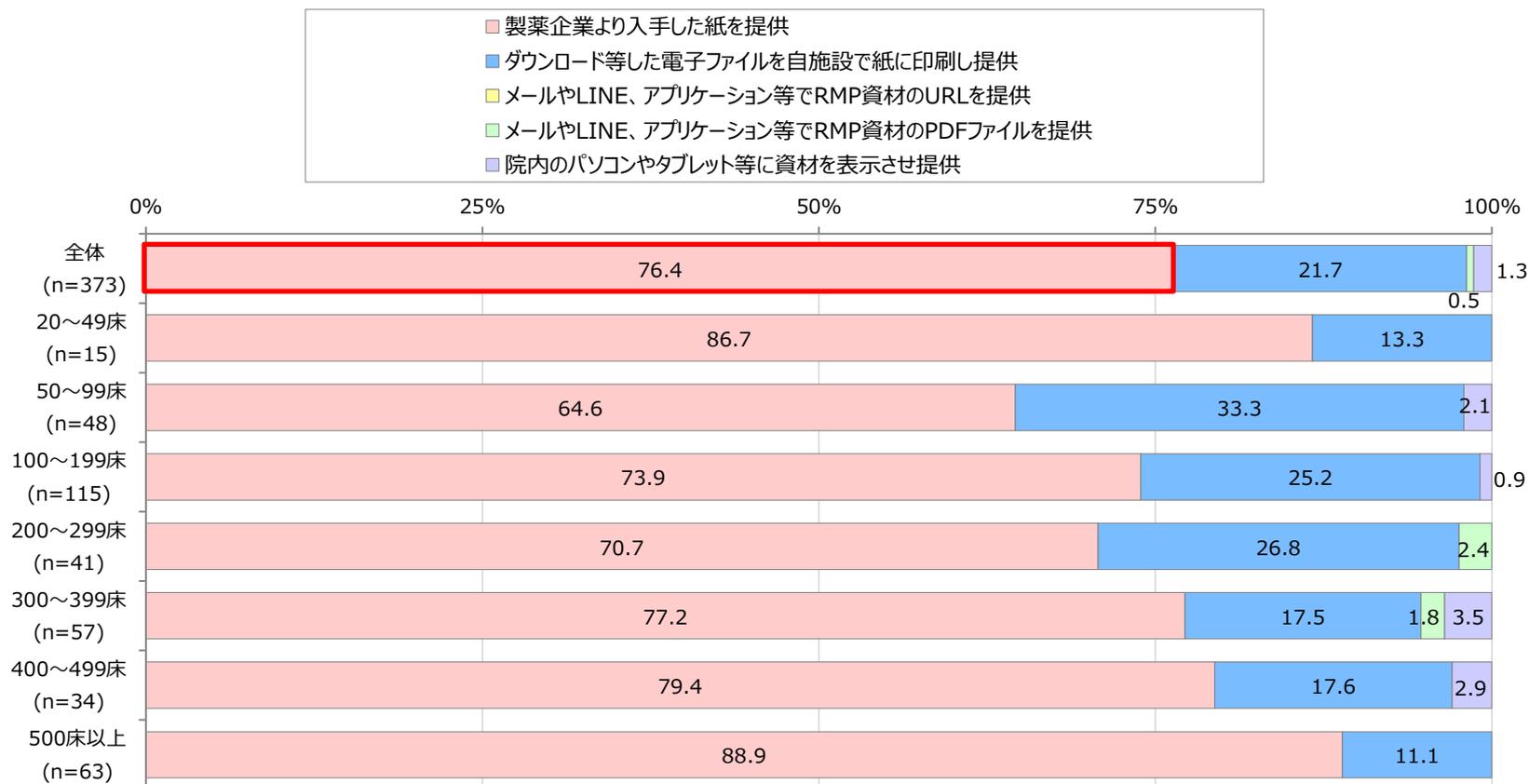
# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 医薬品リスク管理計画（RMP）

### Q3-8.患者向けRMP資料の主な提供方法について教えてください。（1つ選択）

\* 回答対象：Q3-6で「患者向け資料を服薬指導に利用した」「患者向け資料を薬剤交付時に配布した」と回答した施設

#### 《病床数別》



患者向けRMP資料を服薬指導に利用もしくは薬剤交付時に配布したと回答した施設では、「製薬企業より入手した紙を提供」が76.4%で最も多く、次いで「ダウンロード等した電子ファイルを自施設で紙に印刷し提供」が21.7%であった。

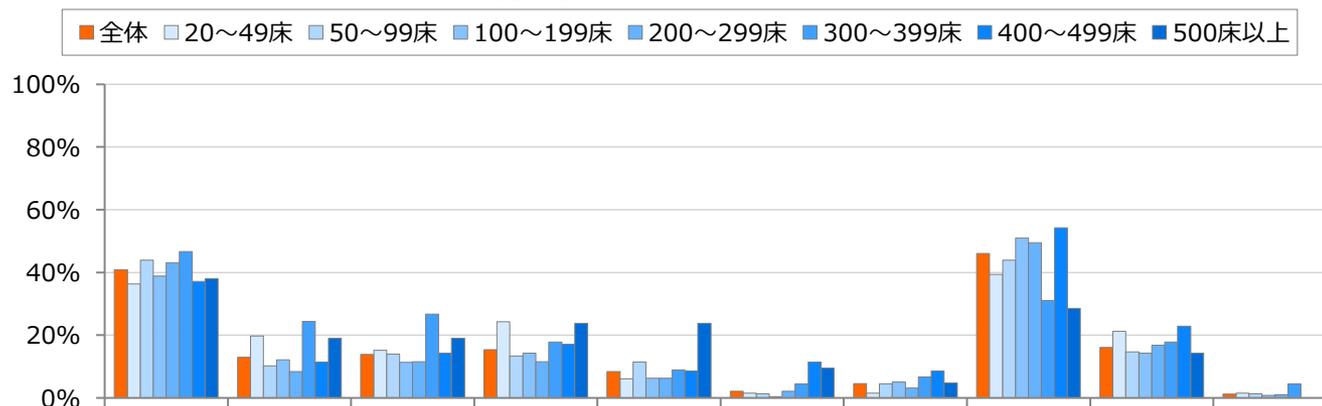
# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 医薬品リスク管理計画（RMP）

Q3-9. 「RMP資材」を業務に活用したことがない理由について教えてください。（複数選択可）

\* 回答対象：Q3-5で「RMP資材」を業務に活用したことがない」と回答した施設

《病床数別》



調査数 (件数)	活用する機会がないから	具体的などのかわからないから	どれがRMP資材か	資材の内容がわかりにくい	資材の内容が難しい	RMP資材ではない	資材の大きさが適切でない	使用しない理由がわからない	手元に資材がない	その他	
全体	658	40.9%	12.9%	13.8%	15.3%	8.4%	2.1%	4.6%	46.0%	16.1%	1.2%
20~49床	66	36.4%	19.7%	15.2%	24.2%	6.1%	1.5%	1.5%	39.4%	21.2%	1.5%
50~99床	157	43.9%	10.2%	14.0%	13.4%	11.5%	1.3%	4.5%	43.9%	14.6%	1.3%
100~199床	239	38.9%	12.1%	11.3%	14.2%	6.3%	0.4%	5.0%	51.0%	14.2%	0.8%
200~299床	95	43.2%	8.4%	11.6%	11.6%	6.3%	2.1%	3.2%	49.5%	16.8%	1.1%
300~399床	45	46.7%	24.4%	26.7%	17.8%	8.9%	4.4%	6.7%	31.1%	17.8%	4.4%
400~499床	35	37.1%	11.4%	14.3%	17.1%	8.6%	11.4%	8.6%	54.3%	22.9%	0.0%
500床以上	21	38.1%	19.0%	19.0%	23.8%	23.8%	9.5%	4.8%	28.6%	14.3%	0.0%

RMP資材を業務に活用したことがない施設では、その理由は「活用する機会がないから」が46.0%で最も多く、次いで「具体的にどのように活用するのかわからないから」が40.9%であった。

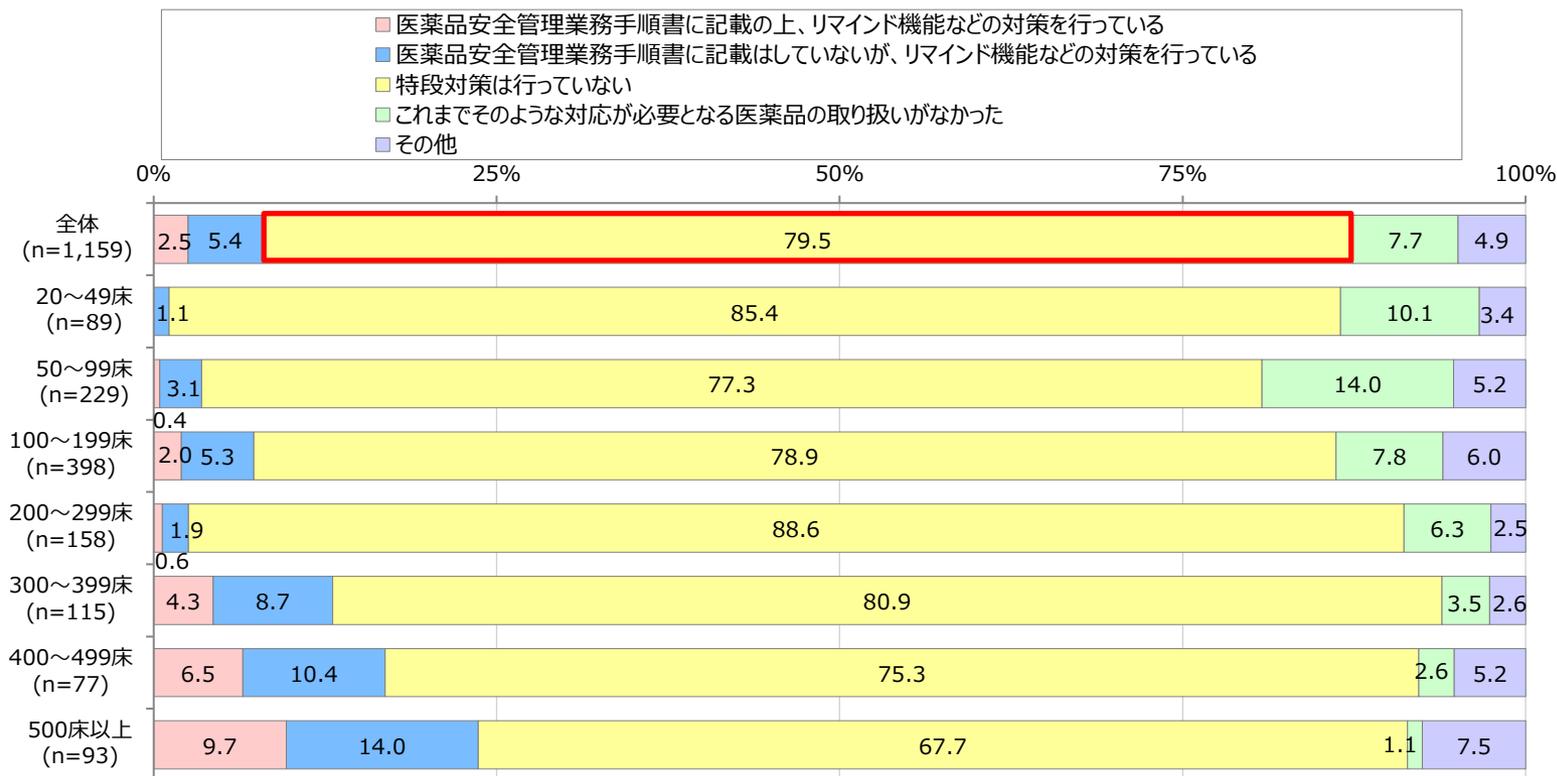
# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 医薬品リスク管理計画（RMP）

Q3-10.医療従事者向けRMP資料には、定期的な検査の実施項目などが記載されている場合がありますが、それらについて電子カルテにリマインド機能を設定するなどモニタリングできるような体制を整備し、医薬品安全管理業務手順書に記載していますか。（1つ選択）

\* 回答対象：Q3-1で「内容をよく理解している」「内容をある程度理解している」「内容を見たことがある」「聞いたことがある」と回答した施設

### 《病床数別》



RMPを認知している施設では、RMPで求められている検査の実施等に関する対策について、「特段対策は行っていない」との回答が79.5%と最も多かった。「手順書に記載していないが、リマインド機能などの対策を行っている」と回答した施設の割合は、病床数が多い施設ほど高い傾向にあった。

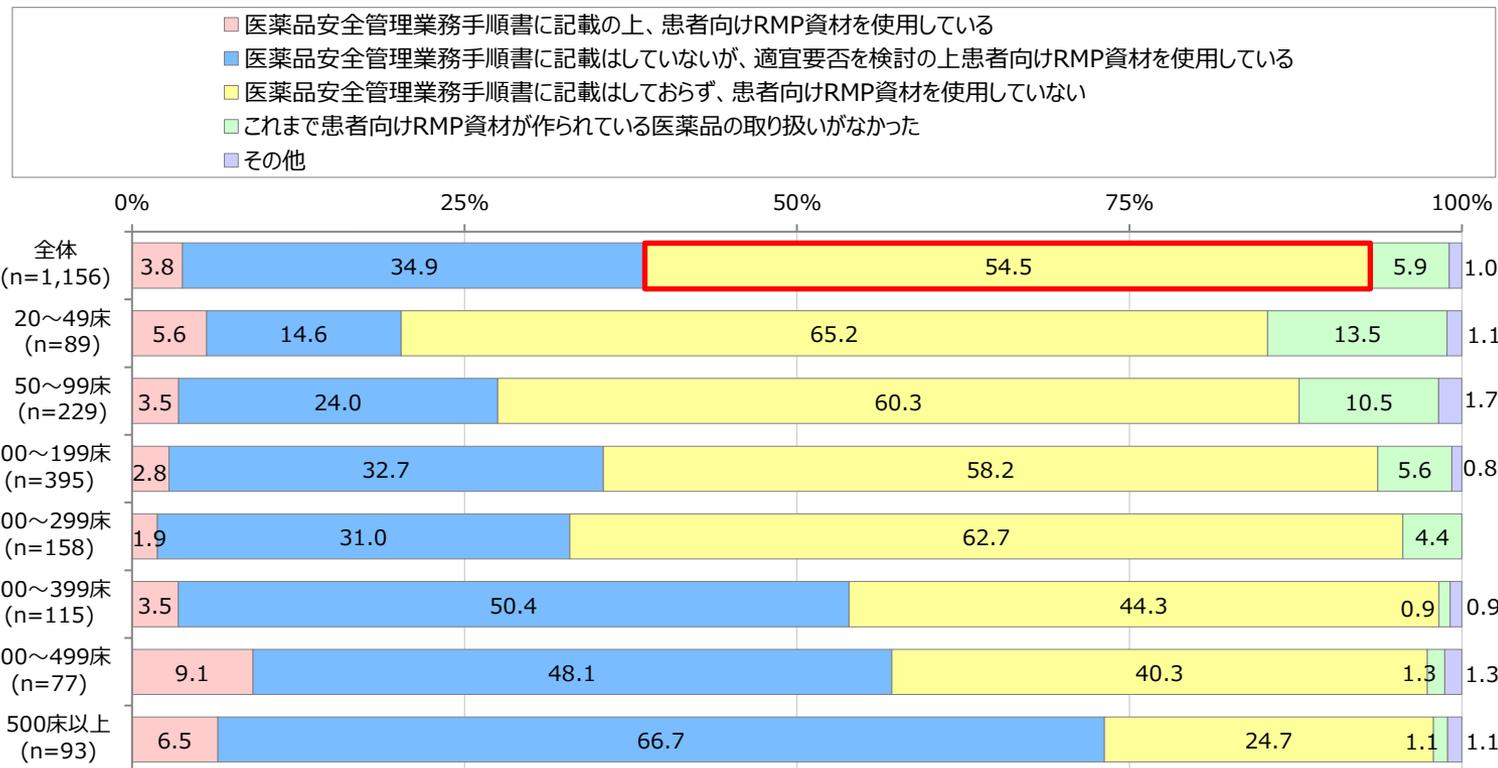
# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 医薬品リスク管理計画（RMP）

Q3-11.患者向けRMP資材について、それを使用して服薬指導を行ったり、患者に配布したりすることが医薬品安全管理業務手順書に記載されていますか。（1つ選択）

\* 回答対象：Q3-1で「内容をよく理解している」「内容をある程度理解している」「内容を見たことがある」「聞いたことがある」と回答した施設

《病床数別》



RMPを認知している施設では、RMP資材の使用や配布について、「手順書に記載しておらず、患者向けRMP資材を使用していない」と回答した施設が54.5%と最も多く、「手順書に記載の上、使用している」と回答した施設は3.8%であった。なお、「手順書に記載していないが、適宜要否を検討の上、使用している」と回答した割合は、病床数が多い施設ほど高い傾向にあった。

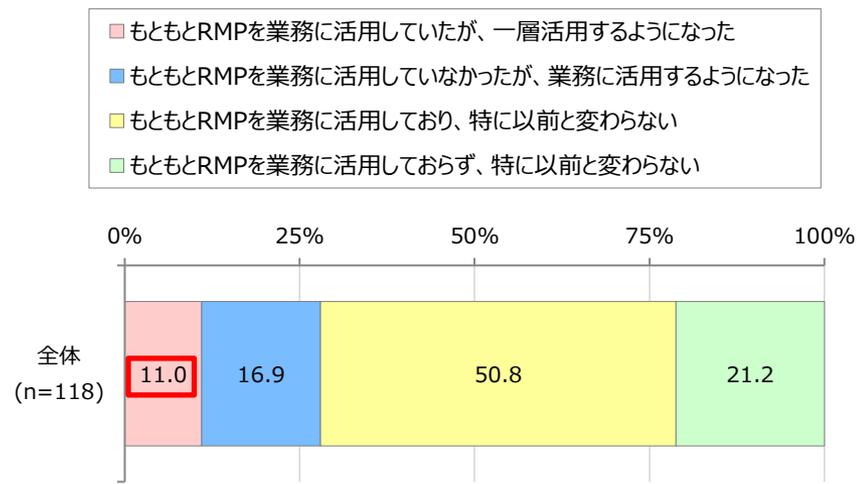
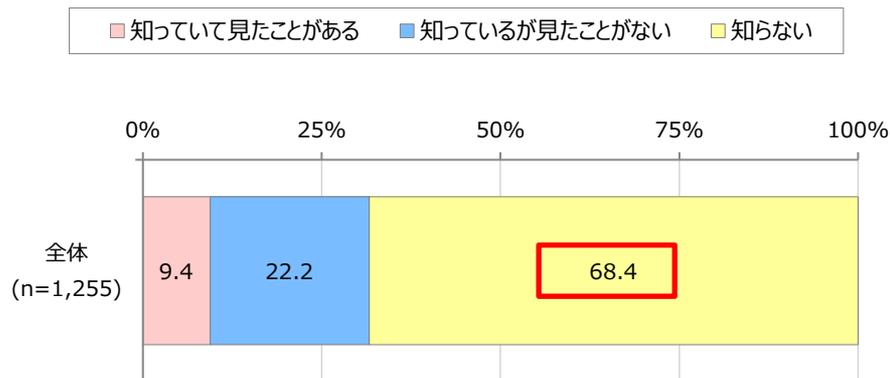
# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 医薬品リスク管理計画（RMP）

Q3-12.RMPのe-ラーニング動画が、PMDAのYouTubeチャンネルにて公開されていることをご存じですか。（1つ選択）

Q3-13. e-ラーニング動画を見たことでRMP（RMP資料を含む）の活用に変化がありましたか。（1つ選択）

\* 回答対象：Q3-12で「知っていて見たことがある」と回答した施設



RMPのe-ラーニング動画について、全体の7割弱の施設が「知らない」と回答した。「知っていて見たことがある」と回答した施設は9.4%であり、前回調査時（9.2%）とほぼ同じ結果であった。

また、動画を見たことによる変化については、動画を見たことでRMPを「一層活用するようになった（11.0%）」、「活用するようになった（16.9%）」との回答がある一方で、21.2%の施設は「もともとRMPを活用しておらず、特に以前と変わらない」と回答した。

# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 医薬品リスク管理計画（RMP）（まとめ）

- RMPを認知している施設※は93.3%であった。また、RMPの内容を理解している施設※※は全体の60.6%で前回調査時（54.4%）と大きく変わらなかったが、病床数が多い施設ほど多い傾向にあり、500床以上の施設では90.3%であった。  
※「内容をよく理解している」「内容をある程度理解している」「内容を見たことがある」「聞いたことがある」と回答した施設の合計（以降も同様）  
※※「内容をよく理解している」「内容をある程度理解している」の合計
- RMPを認知している施設の45.9%がRMPを業務に活用したことがあると回答した。また、RMPの内容を理解している施設では、62.9%がRMPを業務に活用したことがあると回答し、前回調査時（61.2%）と大きく変わらなかった。RMPを活用したことがない施設では、その理由として、「添付文書やIFなど他の情報で十分であるから」との回答が最も多く（47.1%）、次いで「活用する機会がないから（42.8%）」が挙げられた。
- RMPを認知している施設の43.1%がRMP資材を業務に活用したことがあると回答した。また、RMPの内容を理解している施設の57.5%がRMP資材を業務に活用したことがあると回答し、前回調査時（53.7%）と大きく変わらなかった。
- RMP資材を活用したことがある施設でのRMP資材の確認方法としては「PMDA ウェブサイトの医薬品情報検索（53.6%）」、「製薬企業のウェブサイト（52.0%）」が挙げられた。また、患者向けRMP資材の提供方法としては「製薬企業より入手した紙を提供」が76.4%で最も多く、次いで「ダウンロード等した電子ファイルを自施設で紙に印刷し提供（21.7%）」が挙げられた。

# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 医薬品リスク管理計画（RMP）（まとめ）

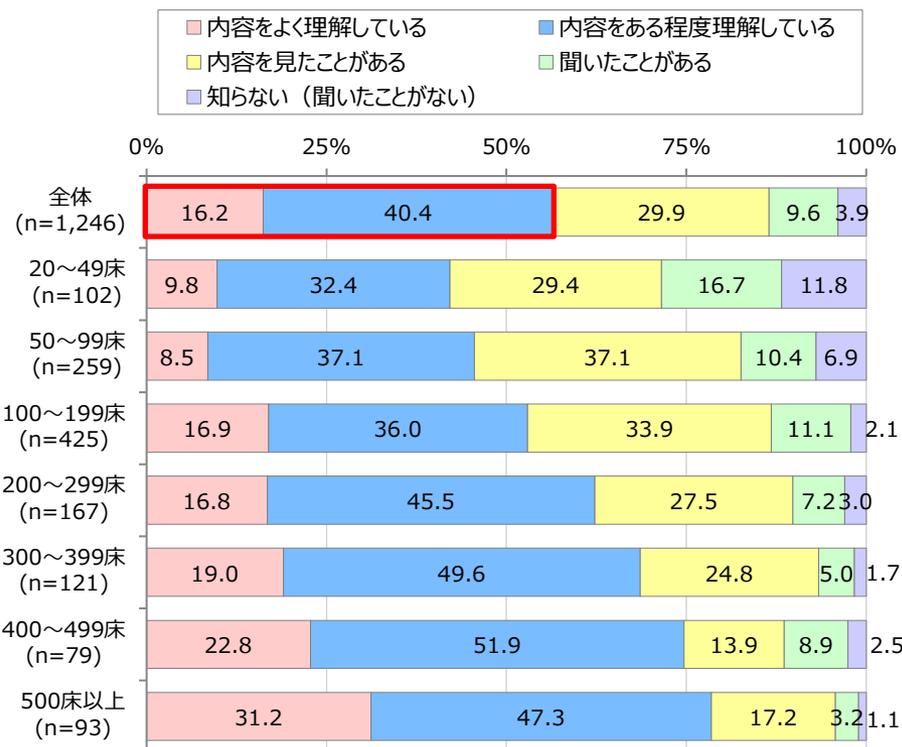
- RMP資材を活用したことがない施設では、その理由として、「活用する機会がないから」との回答が最も多く（46.0%）、次いで「具体的にどのように活用するのかわからないから（40.9%）」が挙げられた。
- RMPに記載されている検査項目等の確実な実施について、RMPを認知している施設の79.5%が「特段対策を行っていない」と回答したが、病床数が多い施設ほど「医薬品安全管理業務手順書に記載はしていないが、リマインド機能などの対策を行っている」と回答した割合が高い傾向にあった。
- RMPを認知している施設の54.5%が、服薬指導等における患者向けRMP資材の利用を「医薬品安全管理業務手順書に記載はしておらず、患者向けRMP資材を使用していない」と回答し、「手順書に記載の上、使用している」と回答した施設は3.8%であった。なお、「手順書に記載はしていないが、適宜要否を検討の上、使用している」と回答した施設の割合は、病床数が多くなるほど高い傾向にあった。
- PMDA のYouTubeチャンネルで公開されているRMPのe-ラーニング動画を「知っていて見たことがある」と回答した施設の割合は9.4%と低く、前回調査時（9.2%）と変わらなかった。なお、動画を見たことによる変化は、RMPを「一層活用するようになった」が11%、「活用するようになった」が16.9%であった。

# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 重篤副作用疾患別対応マニュアル

Q4-1. 「重篤副作用疾患別対応マニュアル」をご存じですか。  
(1つ選択)

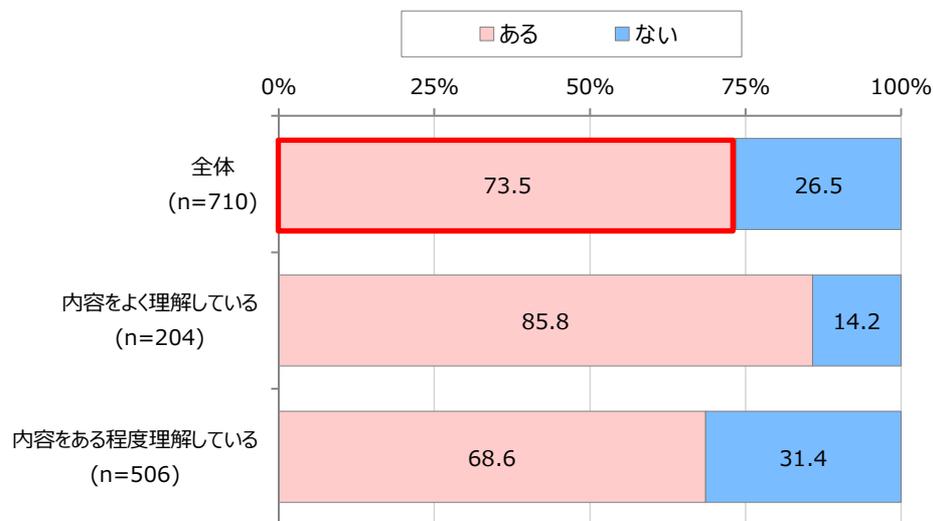
《病床数別》



Q4-2. 貴施設において、「重篤副作用疾患別対応マニュアル」を業務に活用したことがありますか。(1つ選択)

\* 回答対象：Q4-1で「内容をよく理解している」「内容をある程度理解している」と回答した施設

《重篤副作用疾患別対応マニュアル理解度別》



重篤副作用疾患別対応マニュアルの内容を理解している施設※は56.6%であり、前回調査時（51.9%）よりやや向上した。また、内容を理解している施設のうち、「活用したことがある」と回答した施設は73.5%で、前回調査時（76.7%）とほぼ同じ結果であった。

※「内容をよく理解している」「内容をある程度理解している」と回答した施設の合計

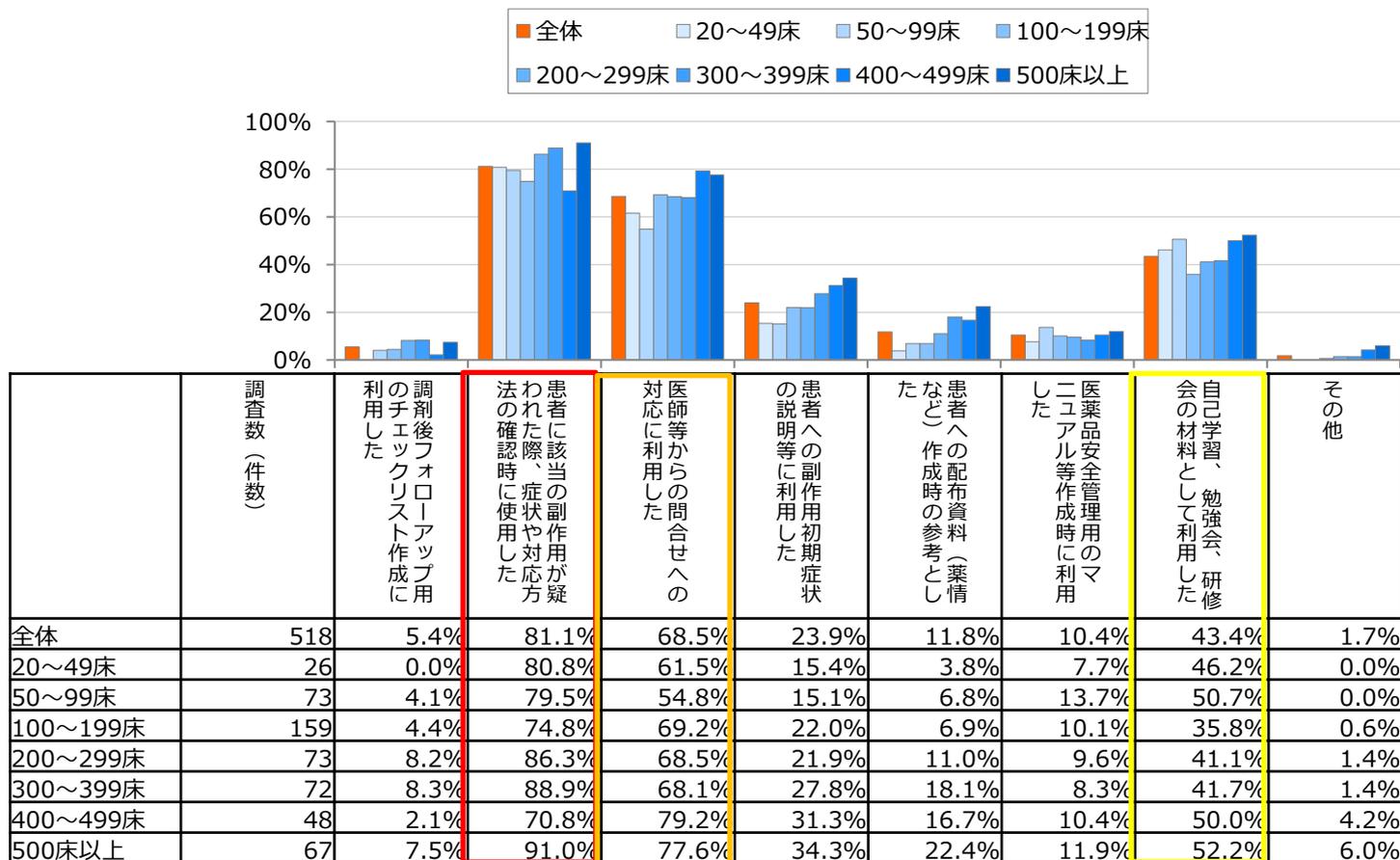
# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 重篤副作用疾患別対応マニュアル

Q4-3. 貴施設において、「重篤副作用疾患別対応マニュアル」について、業務に活用した事例を教えてください。（複数選択可）

\* 回答対象：Q4-2で「重篤副作用疾患別対応マニュアル」を業務に活用したことがある」と回答した施設

《病床数別》



重篤副作用疾患別対応マニュアルを業務に活用したことがある施設では、「患者に該当の副作用が疑われた際、症状や対応方法の確認時に使用した」との回答が81.1%と最も多く、次いで「医師等からの問合せへの対応に利用した」が68.5%、「自己学習、勉強会、研修会の材料として利用した」が43.4%であった。

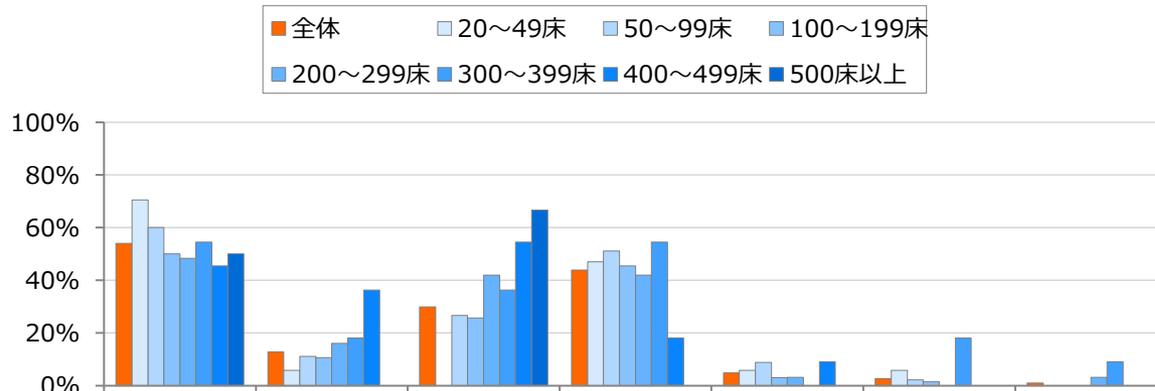
# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 重篤副作用疾患別対応マニュアル

Q4-4. 「重篤副作用疾患別対応マニュアル」について、業務に活用したことがない理由を教えてください。（複数選択可）

\* 回答対象：Q4-2で「重篤副作用疾患別対応マニュアル」を業務に活用したことがない」と回答した施設

《病床数別》



	調査数 (件数)	活用する機会がないから	見る時間がないから	他の情報で十分であるから	重篤な副作用を生じた患者がないから	確認したい副作用のマニュアルがないから	内容が難しすぎるから	その他
全体	187	54.0%	12.8%	29.9%	43.9%	4.8%	2.7%	1.1%
20~49床	17	70.6%	5.9%	0.0%	47.1%	5.9%	5.9%	0.0%
50~99床	45	60.0%	11.1%	26.7%	51.1%	8.9%	2.2%	0.0%
100~199床	66	50.0%	10.6%	25.8%	45.5%	3.0%	1.5%	0.0%
200~299床	31	48.4%	16.1%	41.9%	41.9%	3.2%	0.0%	3.2%
300~399床	11	54.5%	18.2%	36.4%	54.5%	0.0%	18.2%	9.1%
400~499床	11	45.5%	36.4%	54.5%	18.2%	9.1%	0.0%	0.0%
500床以上	6	50.0%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

重篤副作用疾患別マニュアルを業務に活用したことがない施設では、その理由は「活用する機会がないから」が54.0%で最も多かった。次いで「重篤な副作用を生じた患者がないから（43.9%）」「他の情報で十分であるから（29.9%）」が挙げられた。「他の情報で十分であるから」は病床数が多い施設ほどその割合が高い傾向にあった。

# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 重篤副作用疾患別対応マニュアル（まとめ）

- 重篤副作用疾患別対応マニュアルの内容を理解している施設※の割合は56.6%であり、前回調査時（51.9%）と大きく変わらなかった。また、重篤副作用疾患別対応マニュアルを理解している施設※のうち、重篤副作用疾患別対応マニュアルを業務に活用したことがあるのは73.5%であり、これも前回調査時（76.7%）とほぼ同じ結果であった。

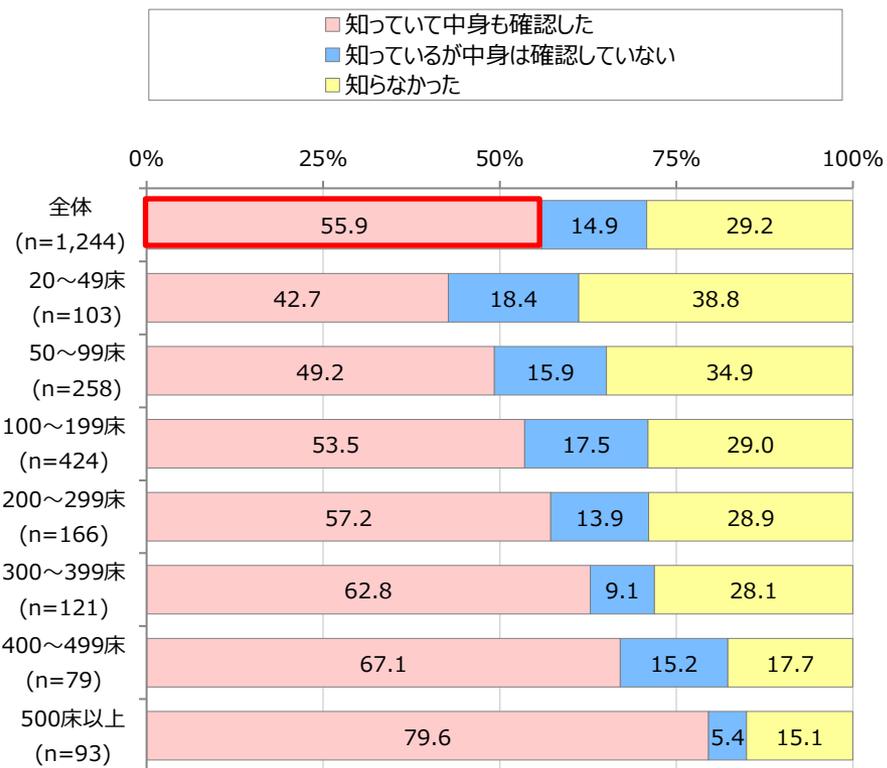
※「内容をよく理解している」「内容をある程度理解している」と回答した施設の合計

- 重篤副作用疾患別対応マニュアルを活用しない理由については「活用する機会がない」が54.0%と最も多く、次いで「重篤な副作用を生じた患者がいらないから（43.9%）」が挙げられていた。

## ■ PMDA医療安全情報

Q5-1. PMDA医療安全情報（No.69、No.51改訂版）が発行されたことをご存じですか。（1つ選択）

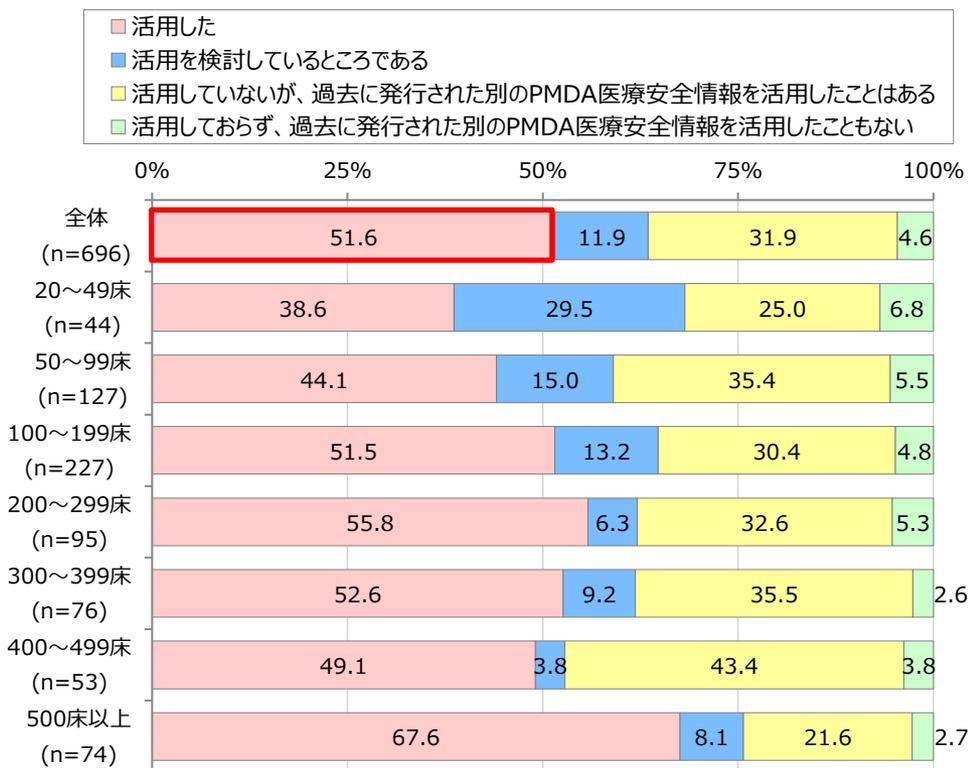
《病床数別》



Q5-2. 貴施設において、PMDA医療安全情報（No.69、No.51改訂版）を業務に活用（院内への掲示や伝達など）しましたか。（1つ選択）

\* 回答対象：Q5-1で「PMDA医療安全情報（No.69、No.51改訂版）が発行されたことを知っていて中身も確認した」と回答した施設

《病床数別》



PMDA医療安全情報（No.69、No.51改訂版）を知っていて、中身を確認したと回答した施設は55.9%であった。病床数が多い施設ほどその割合が高い傾向にあった。また、内容を理解している施設のうち、「活用した」と回答した施設は51.6%であった。

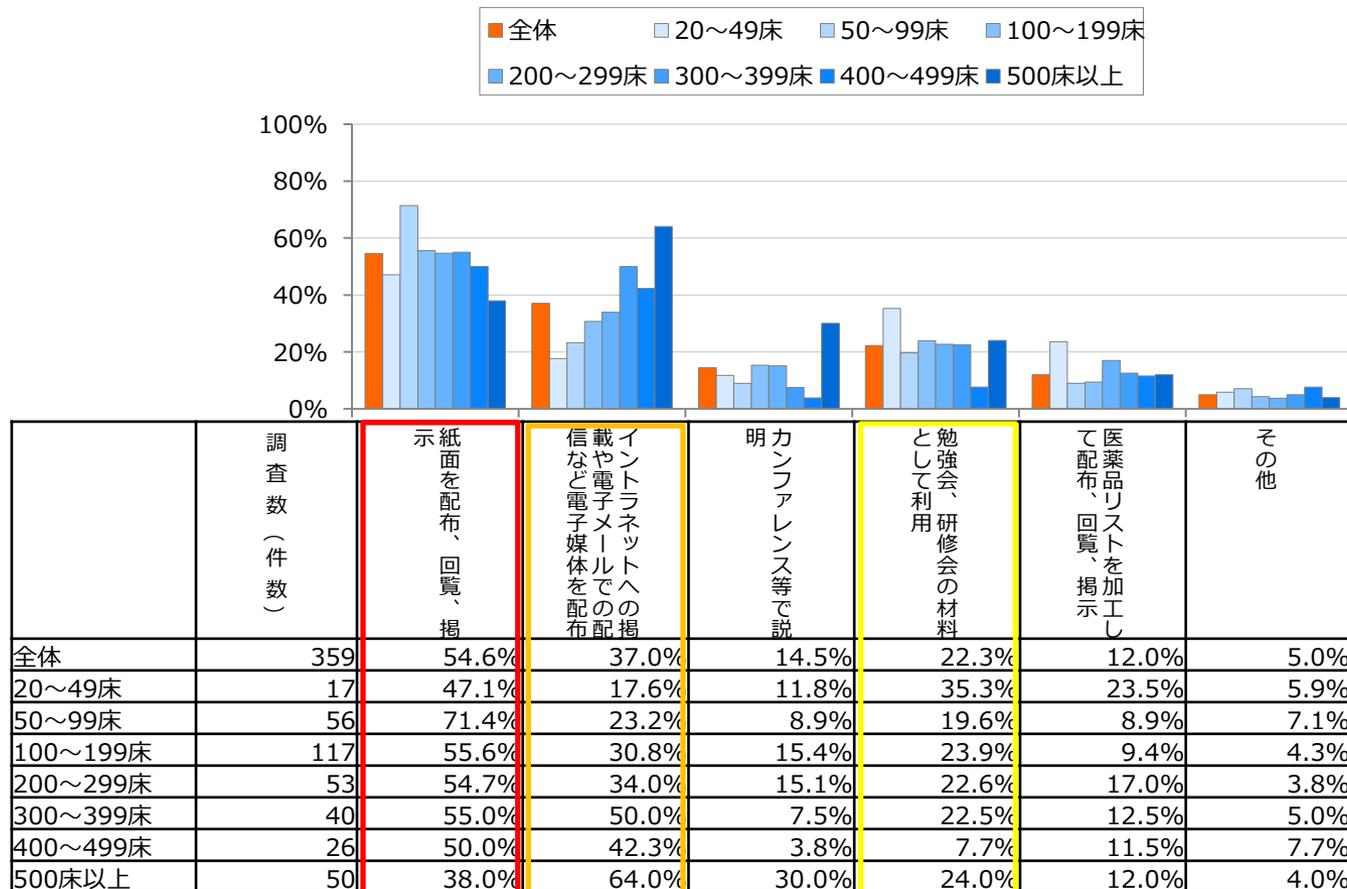
# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ PMDA医療安全情報

Q5-3. 貴施設において、PMDA医療安全情報（No.69、No.51改訂版）の活用方法を教えてください。（複数選択可）

\* 回答対象：Q5-2で「PMDA医療安全情報（No.69、No.51改訂版）を業務に活用した」と回答した施設

《病床数別》



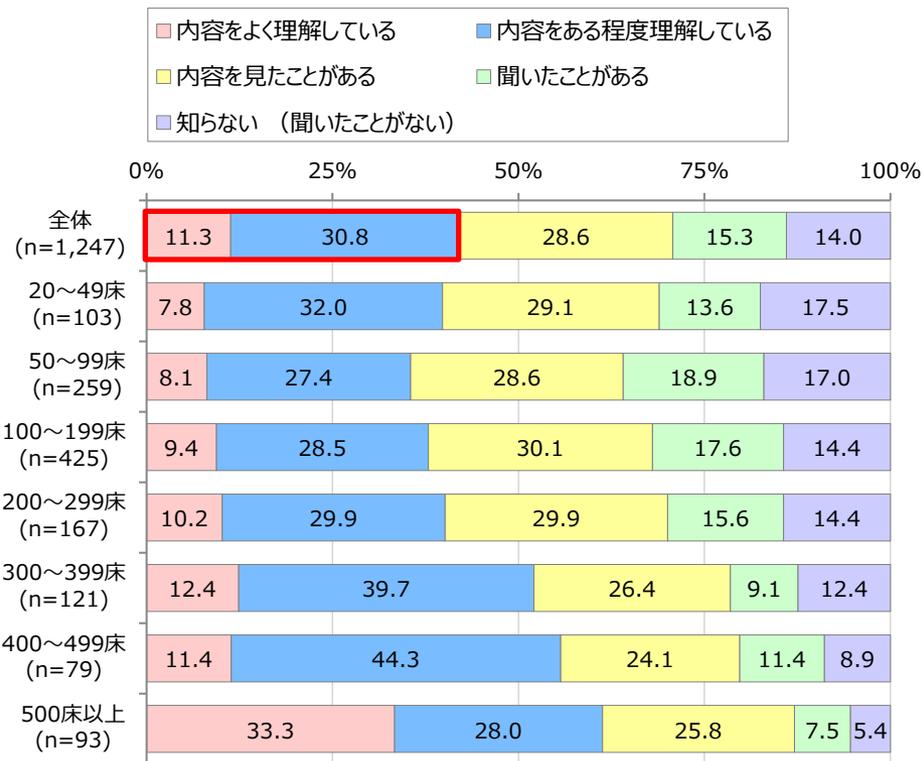
業務に活用したことがある施設では、「紙面を配布、回覧、掲示」が54.6%で最も多く、次いで「イントラネットへの掲載や電子メールでの配信など電子媒体を配布（37.0%）」「勉強会、研修会の材料として利用（22.3%）」が挙げられた。

# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 患者向医薬品ガイド

Q6-1. 「患者向医薬品ガイド」をご存じですか。  
(1つ選択)

《病床数別》



Q6-2. 貴施設において、「患者向医薬品ガイド」を業務に活用したことがありますか。(1つ選択)

\* 回答対象：Q6-1で「内容をよく理解している」「内容をある程度理解している」と回答した施設

《患者向医薬品ガイド理解度別》



患者向医薬品ガイドの内容を理解している施設※は42.1%であり、H29年度調査時（40.7%）から大きく変わらなかった。内容を理解している施設のうち、業務に活用したことがあると回答した施設は59.4%であり、H29年度調査時（68.4%）より低値であった。

※「内容をよく理解している」「内容をある程度理解している」と回答した施設の合計

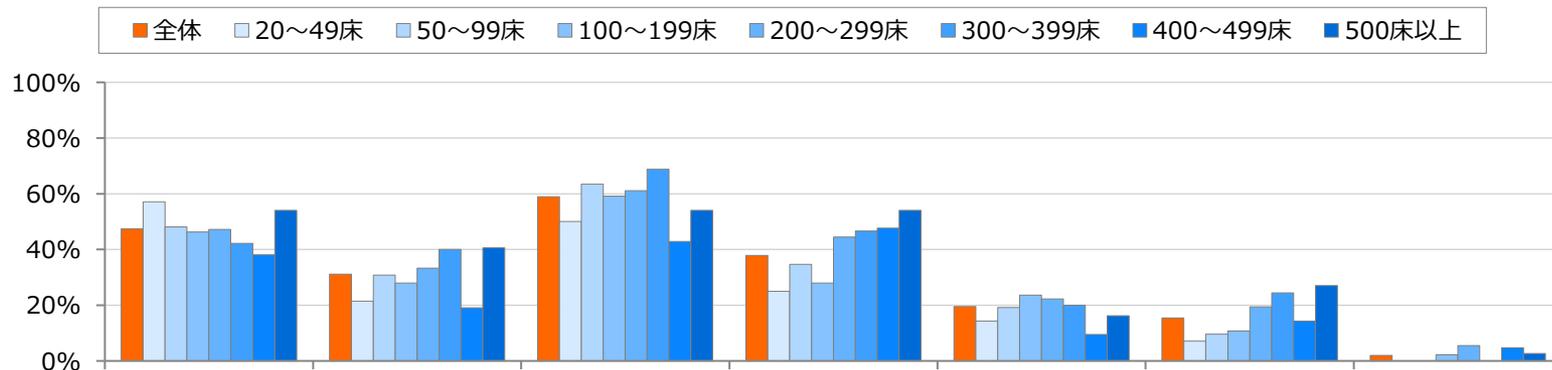
# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 患者向医薬品ガイド

Q6-3. 貴施設において、「患者向医薬品ガイド」について、業務に活用した事例を教えてください。（複数選択可）

\* 回答対象：Q6-2で「患者向医薬品ガイド」を業務に活用した」と回答した施設

《病床数別》



活用事例	調査数（件数）	全体	20~49床	50~99床	100~199床	200~299床	300~399床	400~499床	500床以上
患者への配布資料（薬情など）作成時の参考とした	312	37.8%	25.0%	34.6%	28.0%	44.4%	46.7%	47.6%	54.1%
初回投与時や新薬の投薬時に患者と副作用を確認するために利用した	28	31.1%	21.4%	30.8%	28.0%	33.3%	40.0%	19.0%	40.5%
患者へわかりやすく説明する用語の参考とした	52	59.0%	50.0%	63.5%	59.1%	61.1%	68.9%	42.9%	54.1%
服薬指導時に患者へ提供した（印刷、電子媒体、URLの提供を含む）	93	47.4%	57.1%	48.1%	46.2%	47.2%	42.2%	38.1%	54.1%
看護師（介護ヘルパー）等への説明時に使用した	36	19.6%	14.3%	19.2%	23.7%	22.2%	20.0%	9.5%	16.2%
勉強会、研修会の材料として利用した	45	15.4%	7.1%	9.6%	10.8%	19.4%	24.4%	14.3%	27.0%
その他	21	1.9%	0.0%	0.0%	2.2%	5.6%	0.0%	4.8%	2.7%
	37								

業務に活用したことがある施設では、「患者へわかりやすく説明する用語の参考とした」が59.0%と最も多く、次いで「服薬指導時に患者へ提供した（印刷、電子媒体、URLの提供を含む）（47.4%）」「患者への配布資料（薬情など）作成時の参考とした（37.8%）」「初回投与時や新薬の投薬時に患者と副作用を確認するために利用した（31.1%）」が挙げられた。

# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ PMDA医療安全情報、患者向医薬品ガイド（まとめ）

- **PMDA医療安全情報（No.69、No.51改訂版）を知っていて、中身を確認したと回答した施設は55.9%**であった。病床数が多い施設ほどその割合が高い傾向にあった。また、知っていて中身を確認した施設のうち、「活用した」と回答した施設は51.6%であった。
- **患者向医薬品ガイドの内容を理解している施設※は42.1%**であり、H29年度調査時（40.7%）から大きく変わらなかった。内容を理解している施設のうち、業務に活用したことがあると回答した施設は59.4%であり、H29年度調査時（68.4%）より低値であった。

※「内容をよく理解している」「内容をある程度理解している」と回答した施設の合計

# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 患者さん向け情報提供資材全般

Q7-1.患者さんに服薬指導等を行う際、積極的に提供している資材は何ですか。よく提供している順番に3つまで選択してください。

### ◆ 最もよく提供 (n=1,240)

- 1位：薬剤情報提供書（薬情）（79.8%）
- 2位：製薬企業作成の患者向け資材（RMP資材は除く）（6.7%）
- 3位：くすりのしおり（4.5%）

### ◆ 2番目 (n=1,122)

- 1位：製薬企業作成の患者向け資材（RMP資材は除く）（56.4%）
- 2位：くすりのしおり（11.1%）
- 3位：患者向けRMP資材（11.1%）

### ◆ 3番目 (n=909)

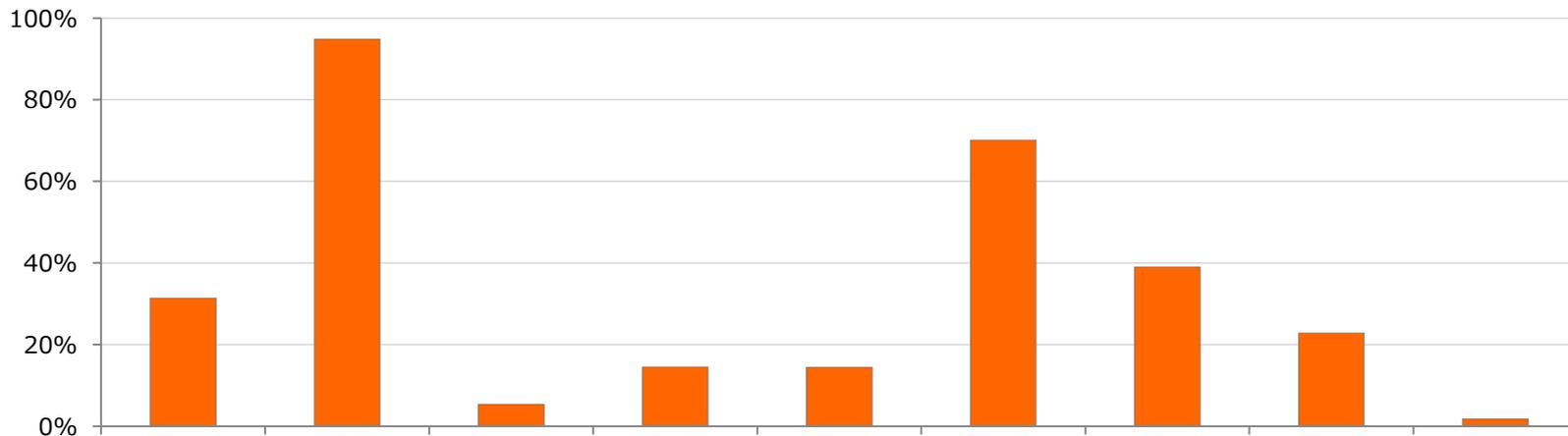
- 1位：院内で作成した患者向け資材（30.4%）
- 2位：製薬企業作成の患者向け資材（RMP資材は除く）（22.2%）
- 3位：くすりのしおり（19.1%）

最もよく提供している情報提供資材は「薬剤情報提供書（薬情）」が79.8%と最も多く、2番目に使われる資材には「製薬企業作成の患者向け資材（RMP資材は除く）（56.4%）」、3番目に使われる資材には「院内で作成した患者向け資材（30%）」が挙げられた。

# リスクコミュニケーションツールについて

## ■ 患者さん向け情報提供資材全般

Q7-2. 患者さんに提供する資材を選択する際、重要視している事項は何ですか。（複数選択可）



	調査数 (件数)	イラストが多い	内容がわかりやすい	患者さんが書き始めるスペースがある	サイズがちょうどよい	分量がちょうどよい	使用方や副作用などが簡潔にまとまっている	副作用の初期症状について記載されている	副作用の発現時期について記載されている	その他
全体	1255	31.4%	94.8%	5.3%	14.5%	14.4%	70.1%	39.0%	22.9%	1.8%

重要視している事項は「内容がわかりやすい」が94.8%と最も多く、次いで「使用方や副作用などが簡潔にまとまっている（70.1%）」、「イラストが多い（31.4%）」が挙げられた。

## ■ 患者さん向け情報提供資材全般（まとめ）

- 最もよく提供している情報提供資材には「薬剤情報提供書（薬情）（79.8%）」、2番目に使われる資材には「製薬企業作成の患者向け資材（RMP資材は除く）（56.4%）」、3番目に使われる資材には「院内で作成した患者向け資材（30%）」が最も多く挙げられた。
- 重要視している事項は「内容がわかりやすい」が94.8%と最も多く、次いで「使い方や副作用などが簡潔にまとまっている（70.1%）」、「イラストが多い（31.4%）」が挙げられた。

# PMDAからの情報提供について

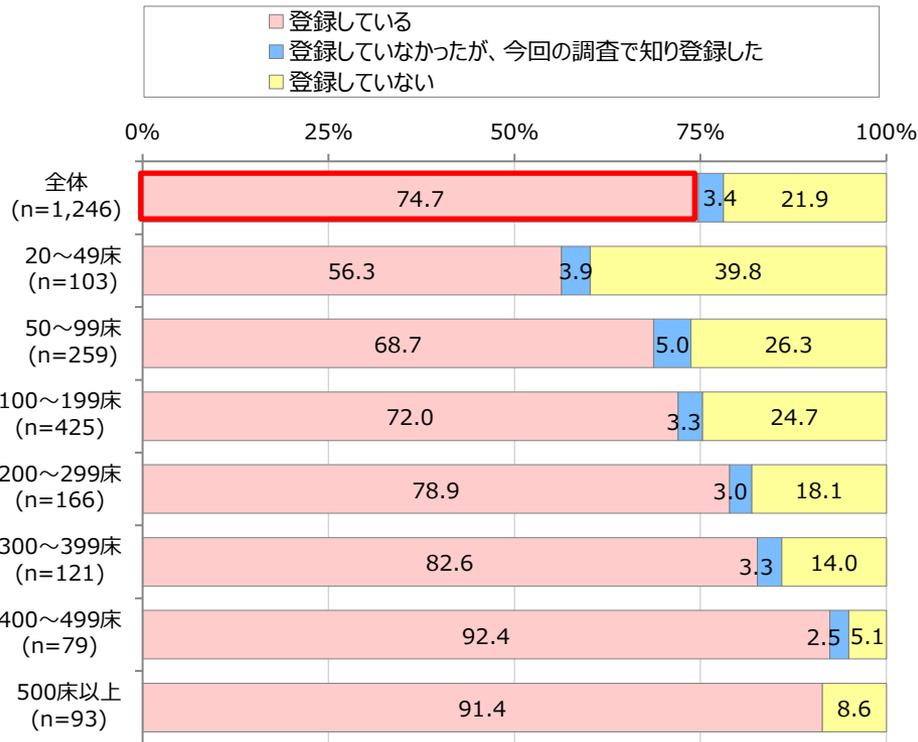
## ■ PMDAメディアナビ

Q8-1. 医薬品安全管理責任者の方または薬剤部（科）内のどなたかが、PMDAメディアナビに登録していますか。（1つ選択）

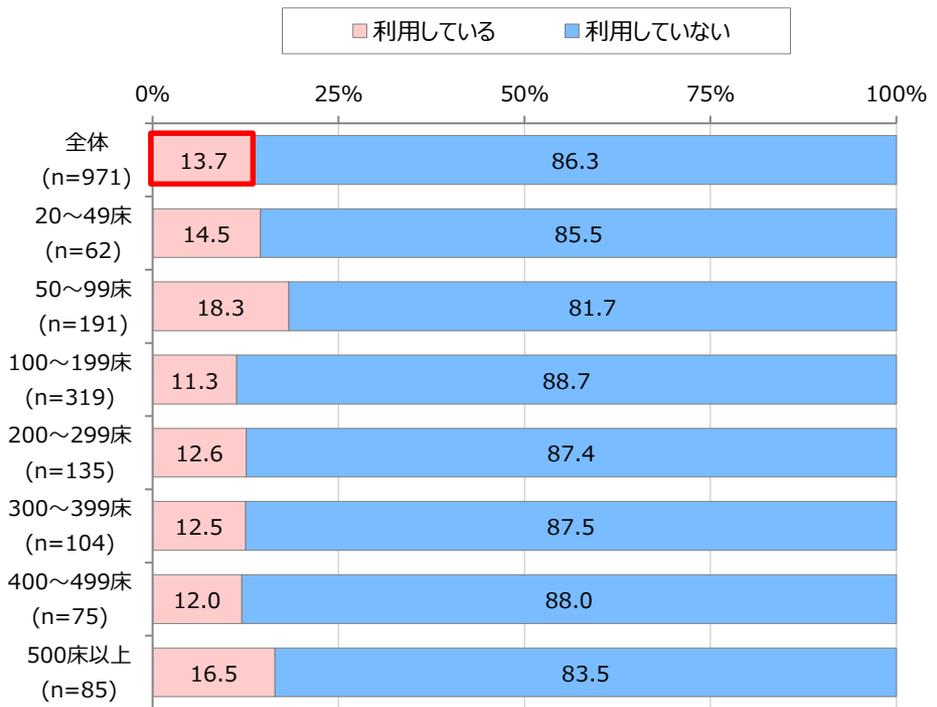
Q8-2. 貴施設にてマイ医薬品集作成サービス（PMDAメディアナビのオプション機能）を利用していますか。（1つ選択）

\* 回答対象：Q8-1で「PMDAメディアナビに登録している」「登録していないが、今回の調査で知り登録した」と回答した施設

《病床数別》



《病床数別》



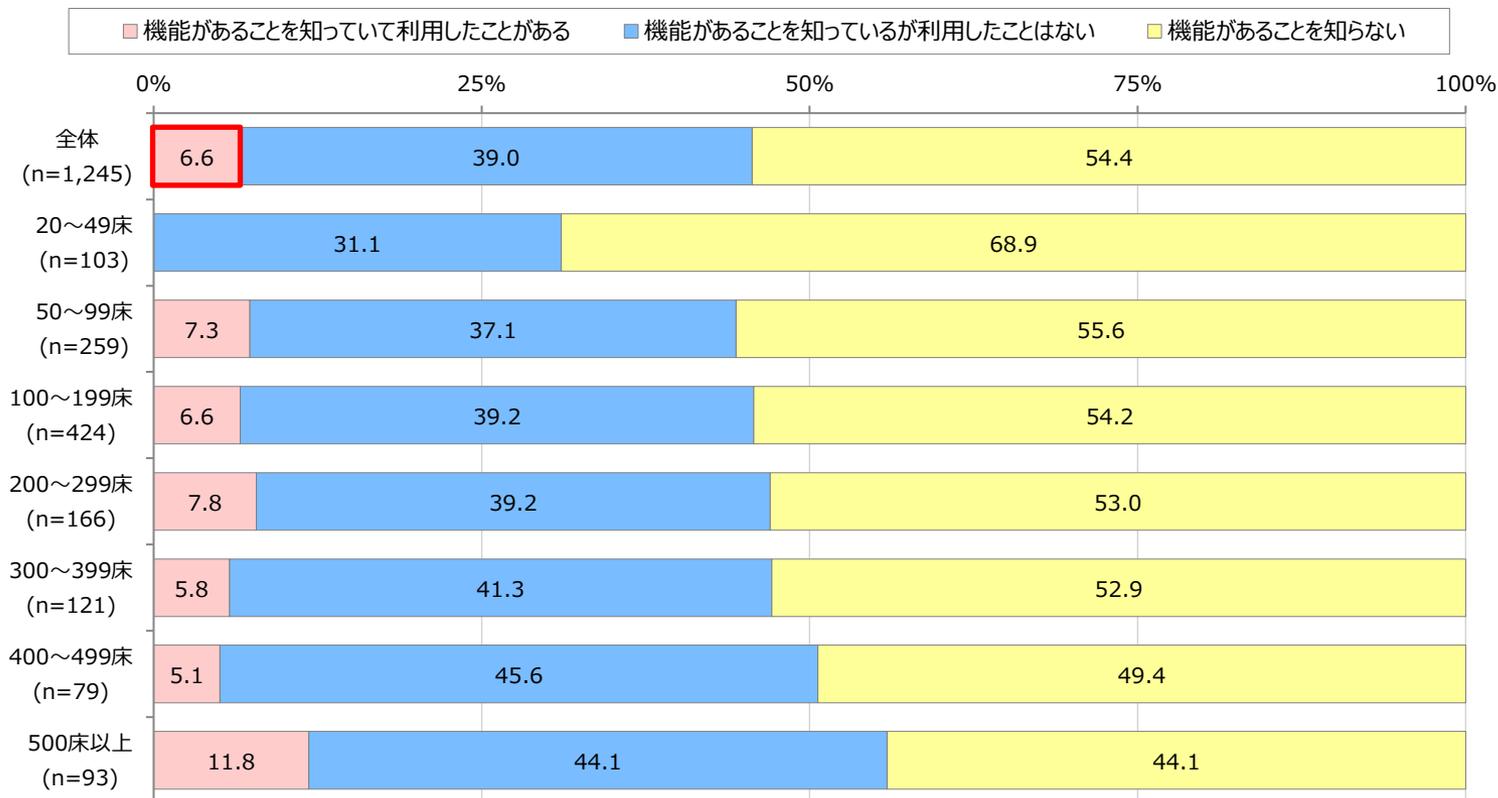
PMDAメディアナビに登録している施設は74.7%であり、前回調査時（77.9%）と大きく変化はなかった。オプションサービスであるマイ医薬品集作成サービスの利用については、PMDAメディアナビに「登録している」あるいは「今回の調査で知り登録した」施設の13.7%が利用していると回答し、前回調査時（16.8%）とほぼ変わらなかった。

# PMDAからの情報提供について

## ■ PMDAメディアナビ

Q8-3.マイ医薬品集作成サービスの機能である添付文書一括ダウンロード機能をご存じですか。また、利用したことはありますか。(1つ選択)

《病床数別》

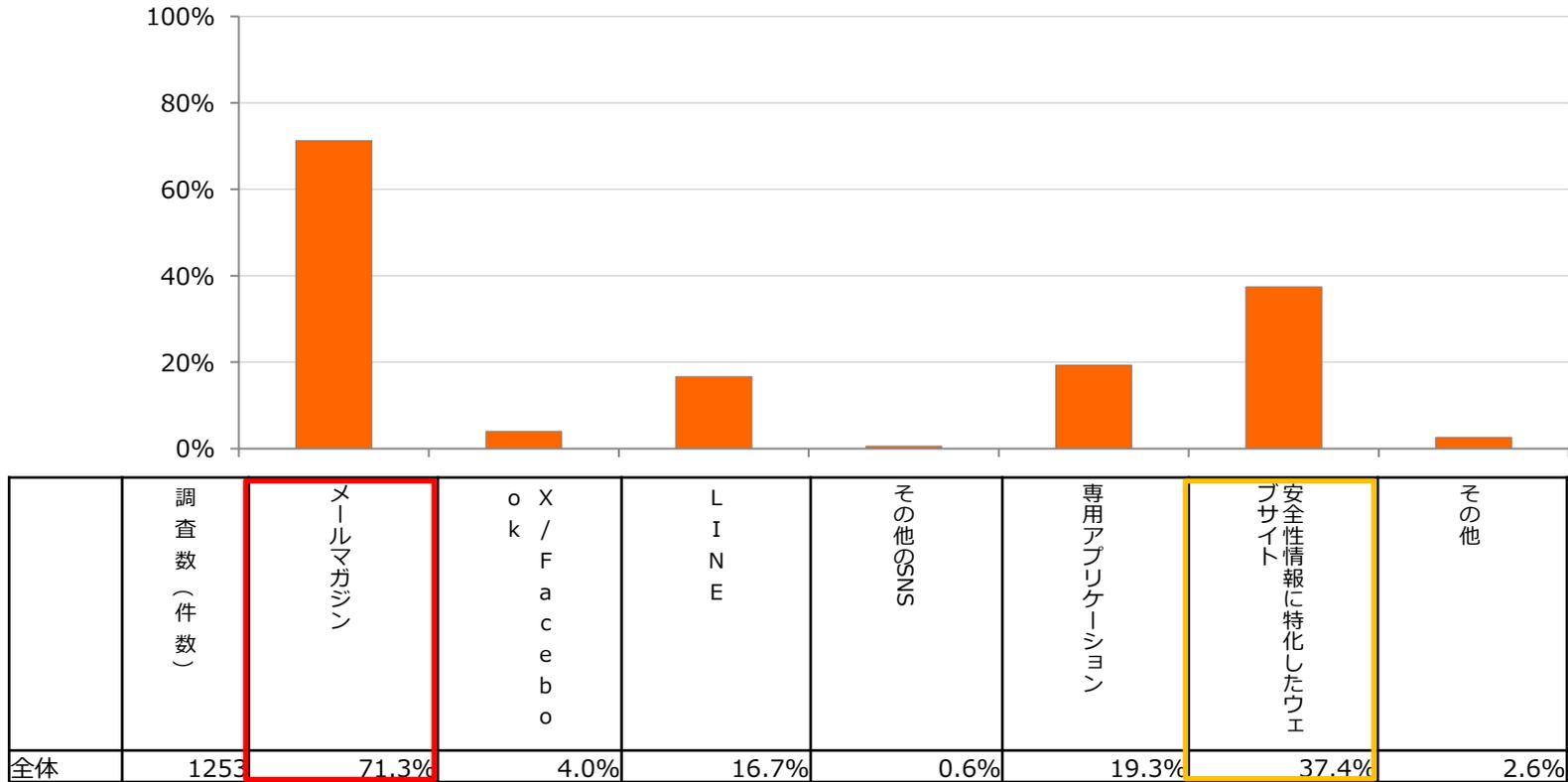


過半数の施設が添付文書一括ダウンロード機能を「知らない」と回答し、「利用したことがある」と回答した施設は6.6%と前回調査時（6.1%）と変わらなかった。

# PMDAからの情報提供について

## ■ PMDAからの情報提供のあり方について

Q9-1.PMDAからの安全性情報の提供方法について、どのような媒体からの発信が望ましいと考えますか。（複数選択可）

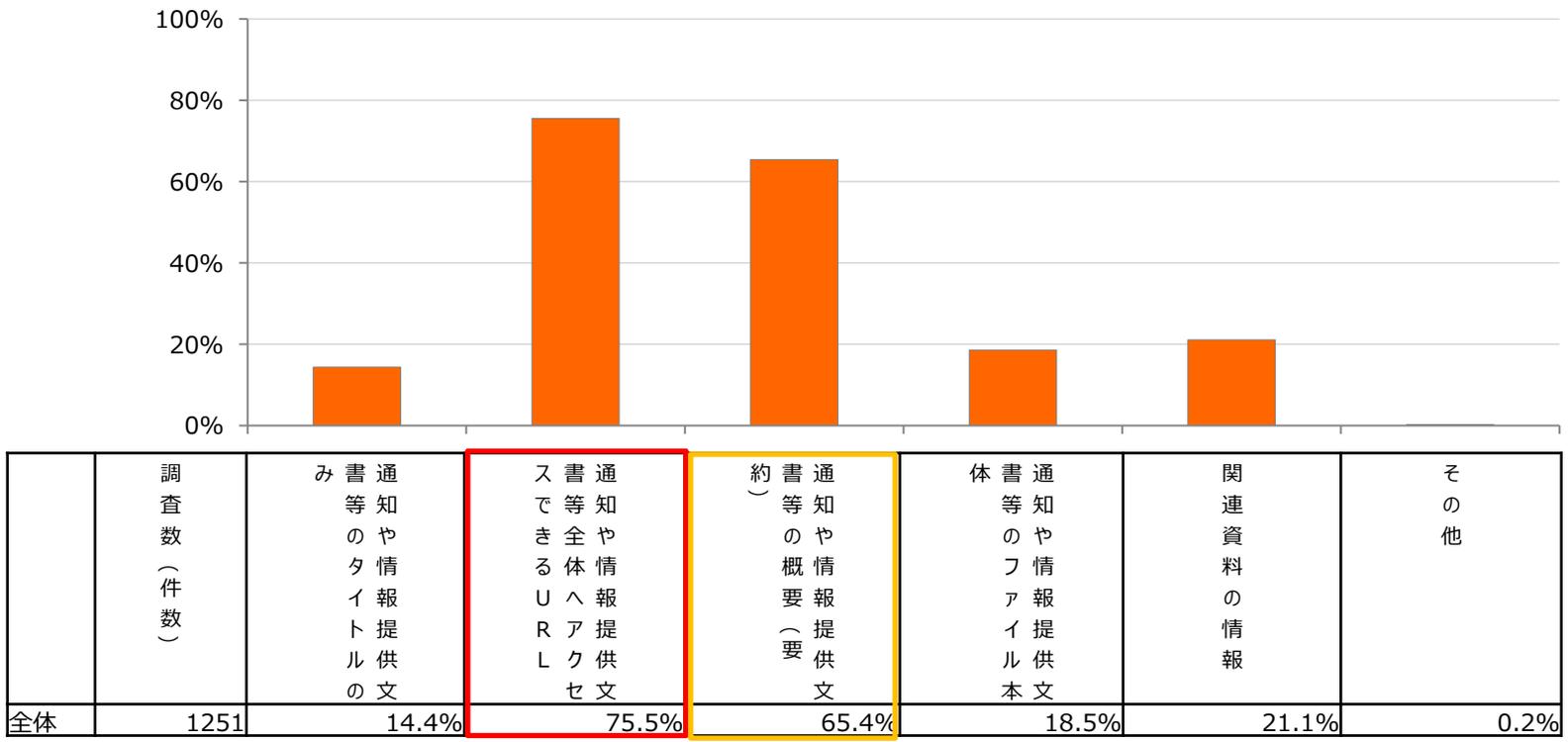


PMDAからの安全性情報の提供方法について、「メールマガジン」が望ましいと回答した施設が71.3%と最も多く、次いで「安全性情報に特化したウェブサイト（37.4%）」が多かった

# PMDAからの情報提供について

## ■ PMDAからの情報提供のあり方について

Q9-2.PMDAから提供される情報には、どのような内容が含まれていることが望ましいですか。（複数選択可）



PMDAから提供される情報に含まれていることが望ましい内容として、「通知や情報提供文書等全体へアクセスできるURL (75.5%)」、「通知や情報提供文書等の概要 (要約) (65.4%)」が多く挙げられた。

# PMDAからの情報提供について

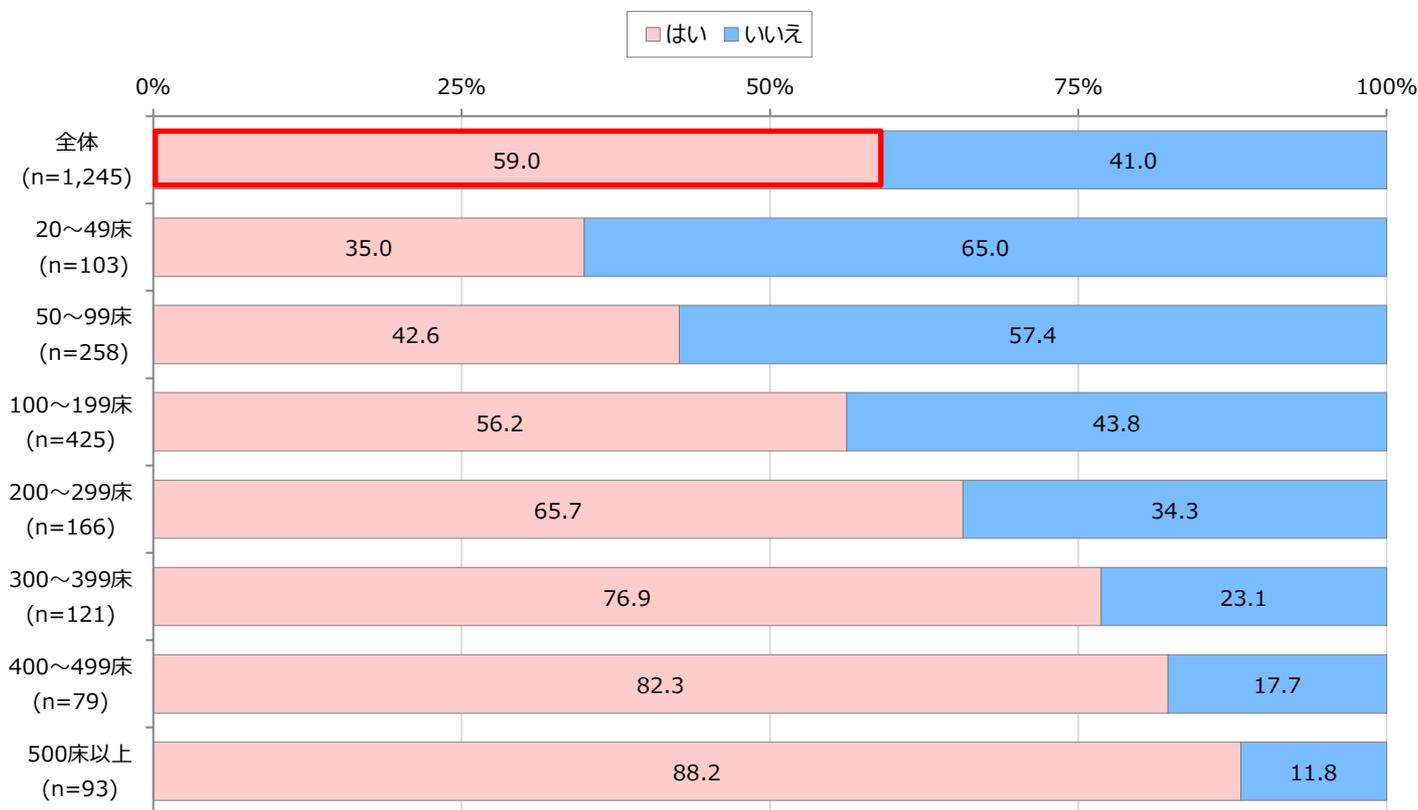
## ■ PMDAメディナビ、PMDAからの情報提供のあり方について（まとめ）

- PMDAメディナビは74.7%の施設で登録されており、前回調査時（82.0%）から大きく変化はなかった。オプション機能のマイ医薬品集作成サービスを利用している施設はPMDAメディナビに「登録している」あるいは「今回の調査で知り登録した」施設の13.7%であり、前回調査時（16.8%）とほぼ変わらず、利用率は低い状況であった。
- 添付文書の電子化に伴い構築された添付文書の一括ダウンロード機能について、過半数の施設が知らないと回答し、「機能があることを知っていて利用したことがある」と回答した施設は6.6%で、前回調査時（6.1%）とほぼ変わらなかった。また、39.0%が「機能があることを知っているが、利用したことはない」と回答した。
- PMDAからの安全性情報の提供方法について、「メールマガジン」が望ましいと回答した施設が71.3%と最も多く、次いで「安全性情報に特化したウェブサイト（37.4%）」が挙げられた。
- PMDAからの提供情報に含まれていることが望ましい内容として、「通知や情報提供文書等全体へアクセスできるURL（75.5%）」、「通知や情報提供文書等の概要（要約）（65.4%）」が挙げられた。

## ■ GS1コード

Q10-1.貴施設において医薬品に関するGS1バーコードを業務に活用していますか。(1つ選択)

《病床数別》



GS1バーコードを業務に活用していると回答した施設は59.0%であり、病床数が多い施設ほどその割合が高い傾向にあった。

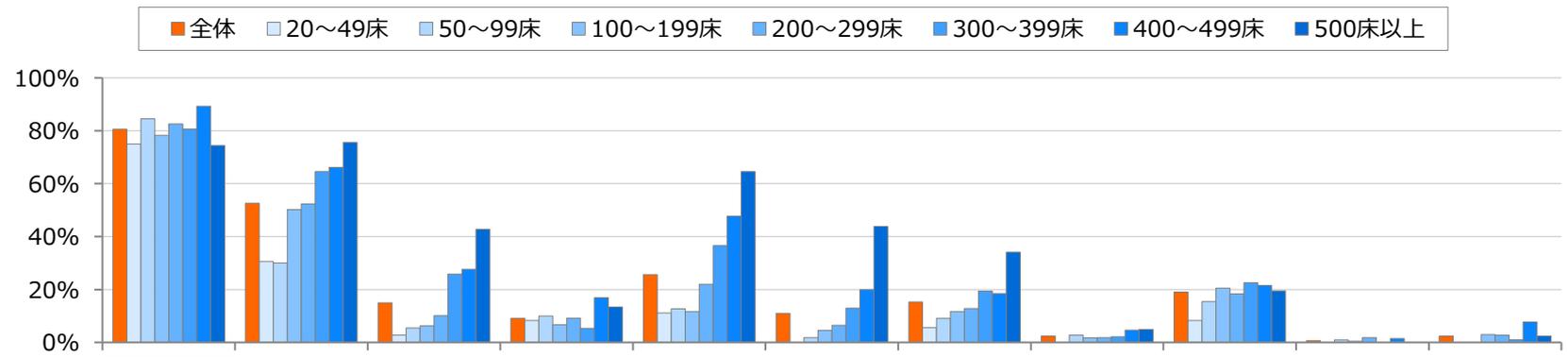
# 安全性情報の活用について

## ■ GS1コード

Q10-2.どのような場面でGS1バーコードを活用していますか。（複数選択可）

\* 回答対象：Q10-1で「GS1バーコードを業務に活用している」と回答した施設

《病床数別》



調査数 (件数)	在庫管理 (例：発注 / 納品 / 出庫 / 棚卸 / 使用期限の確認)	薬剤の補充 (例：調剤棚等への充填 / 自動分包機への充填)	特定生物由来製品の管理 (製造番号や有効期限、ロット記録)	回収製品、ロットの特定	錠剤、外用剤等の取り揃え	抗がん剤や輸液等の混合調製	鑑査	病棟での投薬準備	医薬品情報の閲覧 (添文ナビ等の一般に入手可能なアプリケーションを利用)	医薬品情報の閲覧 (左記以外)	その他	
全体	734	80.5%	52.6%	15.0%	9.1%	25.6%	11.0%	15.3%	2.5%	19.1%	0.7%	2.5%
20~49床	36	75.0%	30.6%	2.8%	8.3%	11.1%	0.0%	5.6%	0.0%	8.3%	0.0%	0.0%
50~99床	110	84.5%	30.0%	5.5%	10.0%	12.7%	1.8%	9.1%	2.7%	15.5%	0.9%	0.0%
100~199床	239	78.2%	50.2%	6.3%	6.7%	11.7%	4.6%	11.7%	1.7%	20.5%	0.4%	2.9%
200~299床	109	82.6%	52.3%	10.1%	9.2%	22.0%	6.4%	12.8%	1.8%	18.3%	1.8%	2.8%
300~399床	93	80.6%	64.5%	25.8%	5.4%	36.6%	12.9%	19.4%	2.2%	22.6%	0.0%	1.1%
400~499床	65	89.2%	66.2%	27.7%	16.9%	47.7%	20.0%	18.5%	4.6%	21.5%	1.5%	7.7%
500床以上	82	74.4%	75.6%	42.7%	13.4%	64.6%	43.9%	34.1%	4.9%	19.5%	0.0%	2.4%

GS1バーコードを業務に活用したことがある施設では、「在庫管理（例：発注/納品/出庫/棚卸/使用期限の確認等）」が80.5%と最も多く、次いで「薬剤の補充（例：調剤棚等への充填/自動分包機への充填等）（52.6%）」「錠剤、外用剤等の取り揃え（25.6%）」が挙げられた。

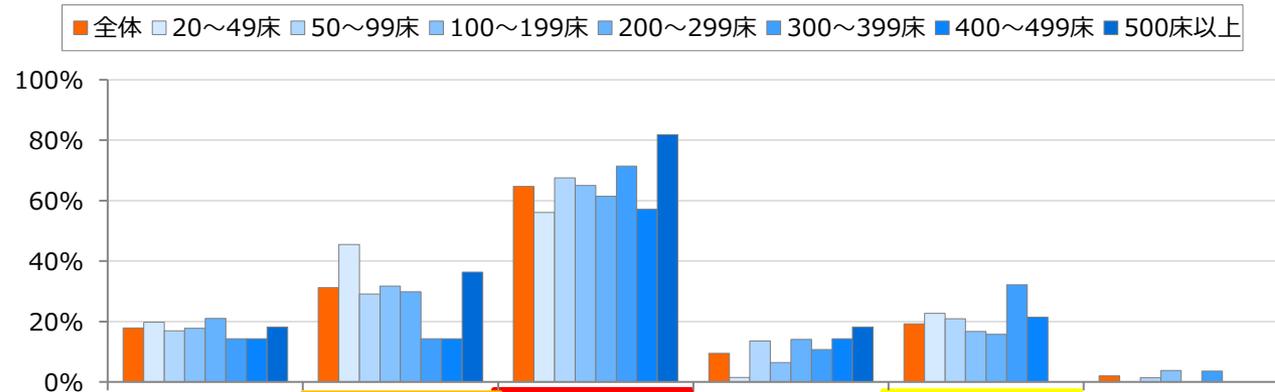
# 安全性情報の活用について

## ■ GS1コード

### Q10-3.活用していない理由を教えてください。（複数選択可）

\* 回答対象：Q10-1で「GS1バーコードを業務に活用していない」と回答した施設

《病床数別》



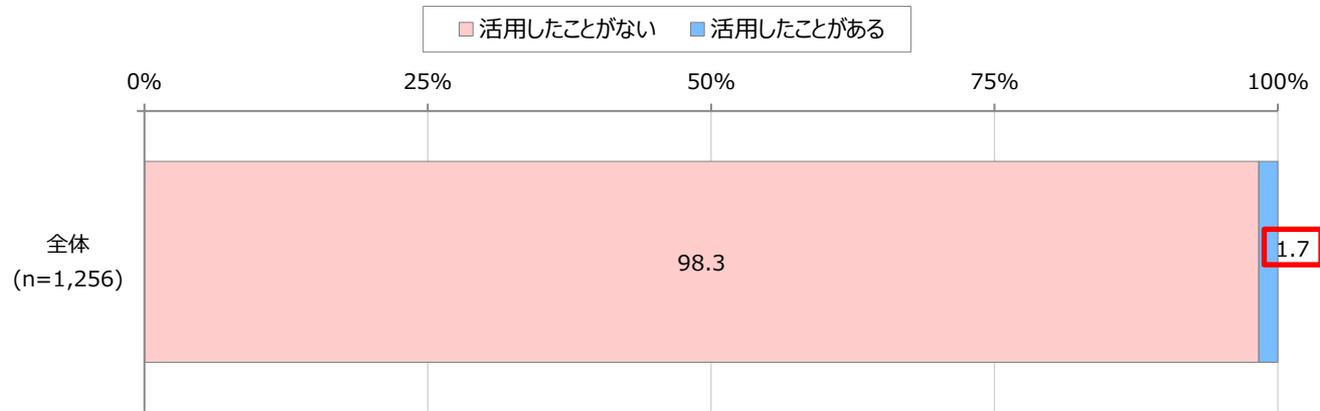
	調査数 (件数)	具体的などのようになら活用するのかわからないから	活用する機会がないから	機材などの導入コストが高いから	バーコードの読み取りが面倒だから	マスタメンテナンスの負担が大きいから	その他
全体	510	17.8%	31.2%	64.7%	9.4%	19.2%	2.0%
20~49床	66	19.7%	45.5%	56.1%	1.5%	22.7%	0.0%
50~99床	148	16.9%	29.1%	67.6%	13.5%	20.9%	1.4%
100~199床	186	17.7%	31.7%	65.1%	6.5%	16.7%	3.8%
200~299床	57	21.1%	29.8%	61.4%	14.0%	15.8%	0.0%
300~399床	28	14.3%	14.3%	71.4%	10.7%	32.1%	3.6%
400~499床	14	14.3%	14.3%	57.1%	14.3%	21.4%	0.0%
500床以上	11	18.2%	36.4%	81.8%	18.2%	0.0%	0.0%

GS1バーコードを業務に活用していない施設では、その理由は「機材などの導入コストが高いから」が64.7%と最も多く、次いで「活用する機会がないから（31.2%）」「マスタメンテナンスの負担が大きいから（19.2%）」が挙げられた。

# 安全性情報の活用について

## ■ YJコードからの安全性情報へのアクセス

Q10-4.医療用医薬品のYJコードを利用して電子版おくすり手帳などから、PMDAウェブサイト上の一般の方向け情報にアクセスできる仕組みがあります。この仕組みを医薬品情報提供に活用したことがありますか。ある場合は具体的な活用事例を教えてください。（1つ選択）

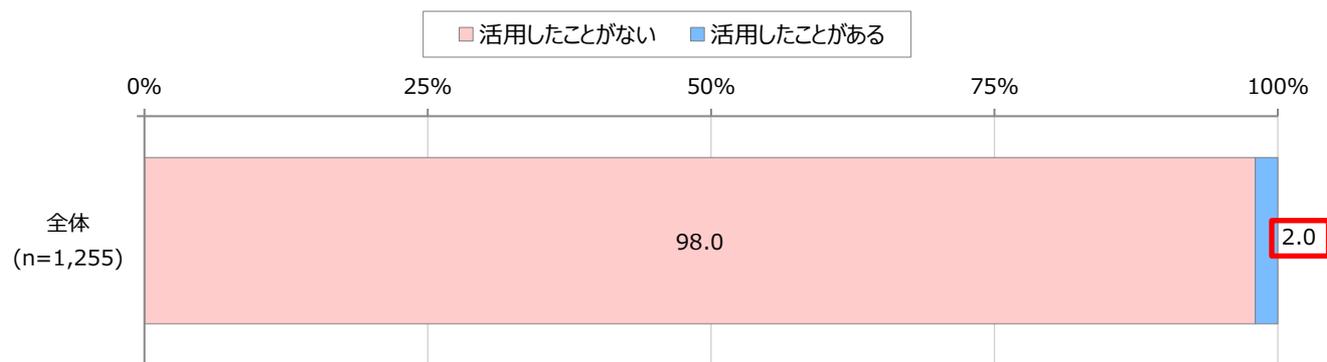


医療用医薬品のYJコードを利用してPMDAウェブサイト上の一般の方向け情報にアクセスできる仕組みを活用したことがあると回答した施設は1.7%であった。

# 安全性情報の活用について

## ■ XML形式の添付文書

Q10-5.電子化された添付文書が構造化されたXML形式になったことにより、検索性が高くなり、品目間の比較など安全対策への利活用が期待されております。業務に関連し、電子添文のXMLファイルを活用したことがありますか。ある場合は具体的な活用事例を教えてください。(1つ選択)



業務に電子添文のXMLファイルを活用したことがあると回答した施設は2.0%であった。

## ■ GS1コード、YJコードからの安全性情報へのアクセス、XML形式の添付文書（まとめ）

- GS1バーコードを業務に活用していると回答した施設は59.0%であり、病床数が多い施設ほどその割合が高い傾向にあった。
- GS1コードを活用していない理由として「機材などの導入コストが高いから」が64.7%と最も多く、次いで「活用する機会がないから（31.2%）」、「マスタメンテナンスの負担が大きいから（19.2%）」が挙げられた。
- 医療用医薬品のYJコードを利用してPMDAウェブサイト上の一般の方向け情報にアクセスできる仕組みを活用したことがあると回答した施設は1.7%であった。
- 電子添文のXMLファイルを活用したことがあると回答した施設は2.0%であった。